

事業報告書及びその付属明細書

2019年度

自 2019年4月1日 至 2020年3月31日

公益社団法人アジア協会アジア友の会

アジア協会アジア友の会（JAFS）のめざすもの

I. 基本理念（Vision）

文化の多様性を尊重し、誰もが生まれてきて良かったと思える地球社会の創造をめざし、以って各自の生命（いのち）の価値を高める。

II. 基本課題（Mission）

1. アジア及び世界の開発途上地域の困っている人々を助ける。
（特に、基本的生存条件が確保できない人々への生活支援を最優先する）
2. 国際社会に必要なボランティア活動の育成推進

III. 基本目標（Goal）

アジアの善意を結集して地球社会奉仕活動を推進し、以って人間として各自に与えられた生命（いのち）の役割を果たす。

IV. 基本活動（Program offered）

1. 国際協力支援事業の推進
2. 国際人的ネットワーク網の確立
3. 日本における良き社会づくりの推進

事業報告			1	
Ⅰ. 開発支援事業				
A. 水事業	1. 井戸・飲料水供給		7	
B. 子ども事業	1. 初等教育普及・向上		9	
	2. 教育設備・環境整備		10	
	3. HIV/AIDS 子ども感染予防			
	4. 栄養改善・ストリートチルドレンの保護・教育支援		11	
C. 貧困対策事業	1. マイクロクレジット支援・能力開発		12	
	2. 保健衛生指導・医療		13	
	3. 提携 NGO 運営助成			
D. 環境事業	1. 植林・水源涵養林養育		14	
	2. 環境改善・国際グリーンスカウト		15	
	3. 再生可能エネルギー資源活用・普及			
E. サイクル・エイド事業	1. サイクル・エイド		16	
F. ワークキャンプ・視察	1. ワークキャンプ		17	
	2. 海外プロジェクト視察		18	
Ⅱ. 国際交流事業				
A. 人材交流・育成事業	1. 奨学金支援		21	
B. ネットワーク推進事業	2. 海外ボランティア研修制度			
	3. 人材育成事業			
	1. 国際会議	(1) アジア国際ネットワークセミナー	24	
		(2) 国際ネットワーク機能強化事業	26	
		(3) アジア・フレンドシップ夢基金		
2. 国際体験交流（スタディツアー等）				
資料：海外提携団体 AFS ネットワーク			27	
Ⅲ. 災害・紛争の罹災者に対する生活支援事業				
A. 災害等罹災者支援事業	1. 災害等罹災者支援事業	(1) ネパール中部地震災害復興支援	31	
		(2) 東日本大震災災害復興支援	32	
		(3) フィリピン台風ファンフォン被災者支援		
Ⅳ. 普及啓発事業				
A. 地域広報活動事業	1. 本部活動	(1) JAFS チャリティプログラム	33	
		(2) 国際理解教育講座		
		(3) 国際ボランティア啓発活動		
		(4) アジア文化理解講座		
		(5) 研修生・実習生受入プログラム		
		(6) 法人関連プログラム	34	
		(7) JAFS 社員クラブ		
		(8) JAFS アジア市民大学		
		(9) 日本語スピーチコンテスト		
		(10) 関連プログラム／その他団体協力	35	
	2. 地区活動	(1) 会員拡大・地区活動推進委員会	36	
		(2) 地区世話人一覧		
		(3) 第1エリア	37	
		(4) 第2エリア		
		(5) 第3エリア	38	
		(6) 第4エリア	39	
		(7) 第5エリア		
		(8) 第6エリア	40	
		(9) 第7エリア		
		(10) 第8エリア	41	
		(11) 第9、10エリア		
	3. 広報	(1) アジアネット	42	
	(2) ホームページ／フェイスブック			
	4. プロジェクト支援	各ファミリーグループ・支援会		45
	5. JAFS40 周年記念委員会	(1) 式典委員会		
		(2) 募金委員会		
		(3) 記念誌委員会		
		(4) ビジョン委員会		
		(5) 会員サービス委員会		
		(6) 作文コンテスト委員会		
		(7) 記念イベント委員会		
	6. 関連市民活動	(1) 関西ナショナル・トラスト協会	46	
		(2) 日本を良くする会		
B. 環境保全・環境教育(国際グリーンスカウト運動)	(1) 土と水と緑の学校		47	
	(2) 美山 土と水と緑の自然学校			
	(3) 各部会活動			
Ⅴ. 運営管理				
A. 社員総会			51	
B. 役員一覧				
C. 理事会			53	
D. 常置委員会				
事業報告の付属明細書			54	

2019年度 事業報告

2019年度、本会は、創立40年を迎えた。これまでの40年の活動を振り返りつつ、変化の激しい社会の中で、これからの10年、国内外問わず、どのように私たちが活動すべきかを検討する年であった。

開発支援事業に関しては、「開発支援から取り残された人たちが」抱える課題解決のため、国際ネットワークの活用により、水、教育、貧困対策、環境の4支援事業(詳細は下記)を通して活動を行った。事業を行うことにより、貧困な農村地域が、持続可能な地域となることを目指した、自立支援を促すことが出来た。

国際交流事業に関しては、40周年事業の一環として第29回アジア国際ネットワークセミナーをインドネシア バリ島にて開催し、第6回アジア・ユースサミットを日本にて大阪と奈良を会場に実施。これからの10年、持続可能な社会づくりと取り残された人びとへの支援をめざして、次世代の若者と現役で活躍するNGOスタッフとの共通の課題認識と解決手段を確認することができた。

災害等罹災者に対する生活支援事業に関しては、ネパール地震の被災地復興支援事業を大規模揚水システム設置及び農業基盤づくりの1年次事業を終了させることが出来た。東日本大震災の南三陸町志津川の「海の見える命の森」にての植樹活動や被災地各所の視察を行うことでの復興応援支援を行った。新規支援として、2019年12月にフィリピンのパナイ島などを襲った台風ファンフォン災害支援をスタートさせた。

普及啓発事業においては、日本国内における様々なイベントやプログラムを通して、本会の広報と支援事業に関する普及啓発が実施できた。新宮市の委託と協力を得て長年継続している環境プログラム「土と水と緑の学校」も無事36年目を迎え、幼い頃から自然や環境に触れることを通して、持続可能な社会づくりができる人材を育成することができた。その他、内外の関連機関との連携も深まり、NGO/NPO活動の社会への広がりに貢献することができた。

運営管理に関しては社員総会、理事会が中心となりガバナンス・コンプライアンスルールを維持し、より一層の組織基盤の強化と経営の透明化を果たした。

I. 公益目的事業1 開発支援事業

A. 『水事業』 - 安全な飲料水供給をめざした井戸建設支援事業

1. 井戸・飲料水供給

2019年度は、アジア7ヶ国(インド、カンボジア、スリランカ、ネパール、バングラデシュ、フィリピン、ミャンマー)の農村58カ所に80基の井戸およびパイプラインを完成することができ、水くみのアクセスに長時間の労働を強いられていた人々の生活環境の緩和をすることができた。加えて、村が小集落へと分散し、水インフラが欠乏している場所や、地震の被災地にて水が枯渇しているところなどにも、井戸やパイプラインの設置を行った。

B. 『子ども事業』 - 貧困層の子どもたちの生活向上を目指した各種支援事業 -

1. 初等教育普及・向上事業(インド、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、フィリピン)

教育里親制度(教育資金の提供)により、上記5ヶ国の就学生470名に教育支援を行った。各里子の教育支援と併せて、就学校のインフラの改善を行った。

2. 教育設備・環境

- インド: インド、カルナータカ州ビジャプーラ県及びマハラシュトラ州ガッチロリ県の日印友好学園校の運営および、設備や遊具などの支援を行った。
- ネパール: 学校校舎2棟の建設を実施し、主に地震後の教育環境改善を実施した。

3. HIV/AIDS 子ども感染予防

- インド: タミルナードゥ州のディンディガル、ナマカル2県のHIV/AIDSの子どもおよび、家族4世帯の支援を行った。

4. 栄養改善とストリートおよび、スラムの子どもたちの保護・教育支援

(1) 栄養改善(ネパール)

タライ平野の低所得地域の小学校の約210名の生徒に、給食支援を実施。子どもたちの栄養状況の改善を行った。また、シンドゥパルチョーク郡の3校の児童に栄養教育を実施し、栄養

改善へつなげる知識の向上を目指した活動を実施した。

(2) ストリートおよび、スラムの子どもたち支援(インド、フィリピン)

インド:マハラシュトラ州ナグプール県のスラムの子どもたちを対象に、文具や教材の支援を実施。放課後の教育指導なども行った。今年度はチャイルドアカデミーの新設のための建設を開始。2020年度の8月オープンを目標に現在取り組んでいる。

フィリピン:マニラのストリートやスラム地区に暮らす経済的に厳しい状況におかれた子どもたちが教育を受け自立できることをめざした就学支援を実施。

C.『貧困対策事業』-自助自立を目指して、収入・雇用を生み出す諸プログラムの推進及び指導-

1. マイクロクレジット支援・能力開発

- インド:マハラシュトラ州アムラワティ県の農村の女性グループを対象にした養鶏事業においては、グループに対して、養鶏の追加支援と指導を行った。
マハラシュトラ州サングリ県の農村貧困層グループに対して今年度から、山羊の飼養支援を行った。
マハラシュトラ州ガッチロリ県の女性のナプキン普及支援に関しては、今年度は資金不足から現場での啓発指導のみ実施した。
- カンボジア:政府の政策により中断をしていたマイクロクレジット事業に関して、支援再開に向けて、村の村落開発委員を再構成し、これまでの利息収入を委員会に委ね、再開した。
- シンドゥパルチョーク郡の地震被災地の農業振興のために農業グループの組織化を行ったが、継続的な活動推進のため、人材育成を行うため村内の若者から農業大学への奨学生を選出した。
- フィリピン: ソルソゴン州のマングローブ植樹地のメンテナンスをおこない、森づくりを継続すると共に、ココナツ繊維を活用した有機肥料による農業の促進を実施し、生計支援につなげた。

2. 職業訓練

- インド:外務省の「平成 29 年度日本 NGO 連携無償資金協力事業」から資金供与を受けて、バンガロール県のバガルール村に職業訓練学校が 4 月に前期、10 月に後期を開校し、前期 28 名、後期 22 名が参加した。

3. 能力開発および向上

- スリランカ:農村開発のために農村ファシリテーター支援を実施した。

4. 保健衛生指導・医療

(1)医療支援

- インド:マハラシュトラ州ムスカ村の病院運営の運営支援を実施。毎週 2 回の医者による診察、常勤の看護師、事務員の支援と患者への薬、ムスカ村および周辺 12 村、のべ約 3,400 人が診察を受けることができた。開所当初から実施していた医療セミナーは、資金不足により今年度は中止した。(2019 年度 連合愛の 캄パ助成事業)
- ネパール:シンドゥパルチョーク郡、カトマンズ郡、ノールパラシィ郡の農村地域の女性の健康維持のために 5 校約 220 名に生理用ナプキンの配布、講習を行い、女性たちが抱える問題に向き合うと同時に、改善策を考える機会をもった。

5. 提携 NGO 運営助成

本会の現地提携団体の運営及びマネージメント強化の為に、インド(RUDYA、HDSI)、カンボジア(KAFS)、スリランカ(SARVODAYA)の運営支援と活動強化を行った。

D.『環境事業』 - 自然環境保全、及び再生に必要な諸活動の支援 -

1. 植林・水源涵養林養育支援

- インドネシア: 北スラベシ州タリセ島にてマンゴーやジャックフルーツなどの果樹 1,000 本支援した。地球温暖化の影響で雨期開始が遅く、植林時期をずらざるをえなかった。
- インドネシア・アチェ:2004 年のスマトラ沖大地震による津波被害の風化を防ぐために、防潮林マングローブ 1500 本の植林を実施した。同時に地元の小・中学校 3 校にて、海の環境保全や限られた資源を守るための環境教育を実施した。(2019 年度公益信託地球環境基金助成事業)
- ネパール: 地域の森を守ると共に新たな憩いの場の創造のため事業として、コミュニティフォレストの

植林を3ヵ村に1849本を植樹した。また、学校の緑化活動のため3校に21本の植樹を行った。
(一部、「緑の募金」助成事業)

- フィリピン: アンティーク州パンダグン町の水源に水源の森保全のための植林を実施した。
- フィリピン: スエバエシハ州サンタローサ町に洪水や台風から土壌を守り、また生計支援になる竹の植林をおこなった。

2. 環境改善・市民による環境保全活動(国際グリーンスカウト運動)

1986年に発足した本会提唱の環境保全市民運動(通称、グリーンスカウト運動)は、現地提携団体を中心に様々な地球環境保全に関する啓発活動が行われている。

- インド: マハラシュトラ州にて継続的に実施されているグリーンスカウト運動の啓発を実施した。
- ネパール: 各地で活動するグリーンスカウト運動と小学生の環境セミナーを2回実施し、3校の児童と教師に対し環境への意識向上を行った。それにより校内及び地域への環境保全活動の推進につなげた。
- フィリピン: 水源涵養林やマングローブの植林等の学外実習や校内の農園等での体験を通じて環境教育と環境保全活動をおこなった。

3. 再生可能エネルギー資源活用支援事業

ネパールにおいて、森林破壊の歯止めと薪の代替燃料確保のため牛糞発酵によるバイオガスの普及を実施。シンドゥパルチョーク郡に新たに30世帯に30基のバイオガスプラントを設置した。この30基により新たに薪の使用量を年間当たり約84,000Kg削減でき、150トンの二酸化炭素排出を抑えることにつながった。(りそなアジア・オセアニア財団助成事業)

E. サイクル・エイド事業

大阪府内の放置自転車有効利用の一環として、再生自転車を必要とするアジアの開発途上地域に寄贈する事業。本年度は、タイのナン県に350台、カンボジアのカンダル州に370台の自転車を寄贈した。主に農村地区の子どもたちの通学や女性の生活改善のために有効活用され、受益者たちが自立への一歩を踏み出した。(競輪の補助事業)

F. ワークキャンプ、プロジェクト視察

上記の各事業に関連して、ワークキャンプは4ヵ国(インドネシア、カンボジア、ネパール、フィリピン)にて11回実施し、のべ202名が参加。2004年度から開催したイオングループ労連のカンボジアワーキングキャンプも今年度8月開催にて、50回目を迎えることができた。プロジェクト視察は、合計16回行った。特にネパールにおいては、シンドゥパルチョーク郡における農業生産性向上事業の一環である視察は、H30年度日本NGO連携無償資金協力(N連)からの資金供与により実施することができた。

II. 公益目的事業2 国際交流支援事業

A. 人材交流・育成事業

1. 奨学金支援

将来の本会のネットワークを担う各国各部会の職員の研修、育成のために奨学金支援を行っている。フィリピンのアジア社会科学院(ASI)の地域開発コースに2019年度は、インドから1名を派遣した。

2. 海外ボランティア研修制度

2019年度は、40周年事業の関係で十分な指導ができる状況で無かったために募集を実施しなかった。

B. ネットワーク推進事業

1. 国際会議

(1) アジア国際ネットワークセミナー

第29回アジア国際ネットワークセミナーを40周年記念事業の一環として、インドネシアのバリ島にて実施した。アジア11ヵ国から96名が参加。テーマは「貧困から人々を救済し、地域社会のリーダーを育成す

る教育の役割」。教育の在り方が私たちの暮らしや人生と密接なかかわりを持っていることを確認し、活動目標として①基礎教育の重視②貧困層への知識と技術の伝達③思いやりと人間の価値観を育む教育の継続などに取り組むとの大会宣言を採択した。

(2) アジア・フレンドシップ夢基金

貧困なきアジア社会の実現を目指して発足したアジア草の根の自立・連帯基金。2019 年度は、上記のアジア国際ネットワークセミナーにて共通基金の拡大に向けた政策や課題の共有、会計報告を行った。

(3) アジア・ユースサミット

2019 年 8 月 17 日(土)～22 日(木)の期間、40 周年記念事業の一環として、日本を含むアジア 11 カ国の高校生を日本に一堂に集め、第 6 回アジア・ユースサミット(以下、第 6 回 AYS)を開催した。プログラムは、大きく分けて①プレゼンテーション、②グループディスカッション、③フィールド研修(奈良県宇陀郡曽爾村を訪問)、④アクションステートメント策定、⑤カルチャーパフォーマンスの 5 つ。それ以外に懇親会やキャンプファイア、フェアウェルパーティなどにおいても交流を深める機会を持った。5 泊 6 日という短くかけがえのない時間と空間を共有し、多様な文化と考え方を尊重しながら、参加者自らが調べ、選択した地域の課題と解決方法を共有し、地球規模の問題としてとらえ、解決に向けて行動することを参加者一同、宣言文(政策)という形で確認することができた。加えて地域の持続可能性の課題に対して、若者が調査をとおして自らの考えや意見を構築し、自らの言葉で発する力を養い、自信を深める機会を提供できた。

(令和元年度外務省 NGO 事業補助金)

(2019 年度 三菱 UFJ 国際財団国際交流助成事業)

2. 国際体験交流(スタディツアー等)

2019 年度は、フィリピン、カンボジアの 2 カ国にてスタディツアーを実施した。文部科学省承認の兵庫県立国際高等学校のスーパーグローバルハイスクールに調査活動も今年度のカンボジア調査が最終となった。調査当初(2016 年 3 月)に実施した調査との比較が行われ、生徒たちへの大きな学びの場となった。

Ⅲ. 公益目的事業 3 災害罹災者に対する生活支援事業

1. 災害等罹災者支援事業

(1) ネパール中部地震 災害復興支援

2015 年 4 月 25 日のネパール中部地震の復興及びその後の持続可能な地域づくりを目指し、シンドゥバルチョーク郡の根本的な水の不足を解決するために、外務省の「平成 30 年度日本 NGO 連携無償資金協力(N 連)」から資金供与を受け、揚水システム設置と農業基盤づくりを行う大規模な復興支援事業を開始し、揚水システムのメイン部を完成することができた。引きつづき、「令和元年度日本 NGO 連携無償資金協力(N 連)」から資金供与を受け、2 期工事を開始し、対象地の東側の集落に対しての水と農業用水の配水を開始した。

(2) 東日本大震災

東日本大震災の風化を防ぐと共に未だ復興のために懸命な現地の人々を支えることを目的にパナソニックグループ労働組合連合会と共に被災地各所の視察を行う。また南三陸町志津川の「海の見える命の森」にての植樹活動を実施し、人々の心の癒しの場づくりの協力を行った。

(3) フィリピン台風フォンファン被災者支援事業

2019 年 12 月にフィリピンのパナイ島などを襲った台風から、子どもたちが継続して勉強を続けられる教育環境を取り戻すために、物資の支援を行うことをスタートさせた。

Ⅳ. 公益目的事業 4 普及啓発事業

A. 地域広報活動事業

1. 本部活動

(1) JAFS チャリティプログラム

本会の活動に様々な形で一般市民に加わってもらえるようチャリティ企画を行った。2019 年度は恒例

の住道駅前の JAFS チャリティバザールを 9 月に実施。また「アジア・チャリティフェスティバル」も 4 年目を迎え、初めて公益財団法人大阪国際交流センターとの共催で開催。多文化共生の観点から在関西のアジア系市民との交流を兼ねたチャリティイベントとして 366 名の参加者があった。その他、それぞれ各地域や各ファミリーグループの支援趣旨のもと、チャリティイベントやコンサートを実施した。

(2) 国際理解教育講座

国際理解教育講座は、学校及び団体へ講義を行った。例年に引き続き、小学校、高校、大学、企業への講義を実施。幅広い社会層の人たちへ国際理解への推進につながった。(講師派遣のべ 9 ヶ所、参加生徒・団員数 443 名)その他、学校からの委託により授業を受け入れ、講義を実施(1 校 15 名)。

(3) 国際ボランティア啓発活動

2019 年 6 月 8 日の社員総会にあわせて、インド及びカンボジアの開発支援事業報告の実施。毎月の JAFS どうすいの会や地区活動などにて、適宜プロジェクト報告を行い、プロジェクト理解の促進やアジア社会の現状の理解につなげた。

(4) アジア文化理解講座

日本に住むアジアの人々と共に、異文化理解講座等を実施し多文化共生社会の実現に努めた。

(5) 研修生・実習生受入プログラム

大阪経済大学及び社会人からの個人応募による 2 名、大学からの依頼により大阪商業大学の学生 1 名の計 3 名が本会での活動を通じて、国際協力団体の活動内容及び市民運動体の運営に関して学び、海外プロジェクト後方支援やファンドレイジング・広報事業の実習を通し、事業推進への貢献活動を実施。

(6) 法人関連プログラム

本会会員、法人賛助会員のアジア理解を深めるためのセミナーを開催した。特に今年度は、創立 40 周年記念として、元駐日イスラエル大使エリ・コーヘン氏による特別講演会・交流会「これでいいのか日本の精神文化」(ユダヤに学ぶ日本の品格)を 5 月 25 日(土)に開催し、多数の未会員も含む総数 88 名(交流会は 65 名)が参加した。

(7) JAFS 社員クラブ

今年度は、新しい試みとして会員拡大も意図し、JAFS 支援も目的とする異業種交流会「コスモスクラブ」と合同のセミナー&交流会を 12 月 2 日(月)に開催した。総参加者数 67 名で、コスモスクラブのメンバーに JAFS の活動を理解いただいた。

(8) JAFS アジア市民大学

JAFS 創立 40 周年記念行事の一環として、政治・経済・自然・社会・文化など多角的に一味違うアジアを探求する場として、2019 年 1 月に開学。専門的視点からアジア個々の国の文化理解に向けた講義と相互交流が行われた。今年度は 4 月から 1 月まで合計 9 回の講義が行われ延べ 152 名が受講した。

(9) 日本語スピーチコンテスト

JAFS 創立 40 周年記念事業の一環として、アジアと日本の絆を深める一助として、在関西のアジア留学生 7 名の出場により、9 月 29 日(日)にクレオ大阪中央にて開催した。

(10) 関連プログラム／その他団体協力

関係団体と連携の中、理事、評議員、運営委員、講師として協力。関西の NGO 活動の推進のため、関西 NGO 協議会(KNC)の理事(副代表)、国際協力 NGO センター(JANIC)の理事、関西国際交流団体協議会は監事として関わり、各ネットワーク NGO を通して市民組織活動の社会意義を広げる活動に関わる。加えて関西最大の国際協力のお祭り「ワン・ワールド・フェスティバル」は実行委員会メンバーとして協力。外務省主催の国際協力イベント「グローバルフェスタ」に JAFS 関東地区が参加。その他多くの関係団体との繋がりの中で本会の活動の更なる推進と関西最古の NGO としての役割を担った。

2. 地区活動

本会の活動をより多くの人たちによって支援されていくためには、様々な地区活動が必要。地区世話人を中

心に広報、ぞうすいの会、ウォーカソン、コンサート・等を中心に各啓発活動が行われた。

3. 広報

(1) 機関誌

本会活動情報誌「アジアネット」を年4回(各4,800～5,200部)発行し、事業報告と海外情報などを提供した。新規の支援者を増やすべく、全国の国際関連施設の情報コーナーなど公開スペース向けにも送付した。

また日本在住の外国人向け、およびアジアを始め海外の人向けに、アジアネット各号について、ヘッドラインと写真を中心に英訳した英語版を作成し、ホームページおよびフェイスブックにて発信した。

(2) インターネット・フェイスブック

ホームページで本会のイベント情報やニュースなどを随時更新した。フェイスブックでも適宜必要なイベント情報の掲載、広報、報告を行った。

4. プロジェクト支援(支援会・ファミリーグループ)

各支援会、ファミリーグループなど15グループが様々なイベントやチャリティ活動に参加し、本会の支援事業の応援を精力的に展開していった。

5. 40周年関連事業

JAFS40周年記念委員会を立ち上げ、10月5日の記念式典実施(参加者総勢152名)。それに向けて7つの小委員会(式典委員会、募金委員会、記念誌委員会、ビジョン委員会、会員サービス委員会、作文コンテスト委員会、記念イベント委員会)による準備を通して、40年間応援し支えてくださった会員や支援者への感謝を表した。加えて、記念誌の発行。日本語スピーチコンテストの開催。募金活動やビジョン作成、作文コンテストにより将来に向けた基盤づくりを実施した。

6. 関連市民活動

関西ナショナル・トラスト協会、日本を良くする会、グリーンベイ OSAKA の活動もそれぞれの設立趣旨の下、活動が活発に行われた。

B. 環境保全・啓発教育事業

国際グリーンスカウト活動

(1) 「土と水と緑の学校」開催

「土と水と緑の学校」は36回目を迎えた。新宮市から協力を受けて、参加者75名・総勢166名参加し、「土の日」「水の日」「緑の日」「海の日」にわかれ、環境保全プログラムを展開した。新宮市からの参加もより多く見られ、地域密着型のプログラムとして今後の発展に期待ができる形となった。

(2) 美山「土と水と緑の自然学校」開催中止

美山「土と水と緑の自然学校」を京都府南丹市美山町にて2019年3月27日～30日に開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染防止対策により、開催を中止した。

(3) 国際グリーンスカウト国内活動

本会が提唱した国際グリーンスカウト(“Clean & Green”の標語の下で、地球環境保全を地域で推進する)活動として、アジア各地のグリーンスカウトメンバーが活動を行っている。国内では大阪、吹田、寝屋川・枚方の3地域に部会を持つ。大阪は、毎年8月に実施される土と水と緑の学校のプログラムの運営を支援。その他、京都の美山町で環境プログラムの開催を支援した。吹田は、毎月1回例会、糸田川清掃活動を実施。寝屋川・枚方は、地域活動グループと共に緑化農業活動に参加した。

V. 運営管理

本年度も、理事会(4回)を開催、事業や運営の課題について話し合った。それに伴い、各常置委員会もそれぞれ適宜実施された。今年度も公益法人としての、ガバナンス、コンプライアンスルール強化を行った。

以上を以て2019度の活動事業報告の概要としたい。

I. 開発支援事業

I-A. 水事業

1. 井戸・飲料水供給

(2020年3月現在)
(パイプライン・貯水タンクを含む)

国名	2019年度完成	累積
インド	8	494
インドネシア	-	45
カンボジア	19	454
スリランカ	11	124
タイ	-	88
中国	-	1
ネパール	15	275
バングラデシュ	9	166
パキスタン	-	8
フィリピン	14	410
ブルキナファソ	-	1
ミャンマー	4	26
ラオス	-	21
合計	80	2,113

●インド

RUDYA マハラシュトラ州ガッチリ県	3基
ポンプ式井戸	3基

ダンノラ地区サケラ村
ダンノラ地区ダワリ村
タ地区レクタラ村

HDSI マハラシュトラ州アムラワティ県	5基
ポンプ式井戸	5基

ビヤニ チョーク村
ティヴァサ地区ビルガヴァン村
モーシュ地区ウドヘド村
チャンドウルバザール地区カルホディ村
アンジャンガオン地区アンジャンガオン村

●カンボジア

KAFS タケオ州	19基
露天式井戸	19基

トレアン郡ロネアム地区ソフィ村(2)
トレアン郡ロネアム地区トラパン・タム村(2)
トレアン郡ロネアム地区トラパン・クレイ村(2)
トレアン郡プレイスリュック地区トラパン・ベン村(2)
トレアン郡クバブ地区タマダ村(2)
トレアン郡クバブ地区サーモア・クロム村

トレアン郡プレイスリュック地区ニール村
トレアン郡プレイスリュック地区ソチャン村
トレアン郡ロネアム地区タマダ村(2)
トレアン郡プレイスリュック地区プレイスリュック村
トレアン郡クバブ地区カイ・ラン村
トレアン郡プレイスリュック地区ニール村
トレアン郡プレイスリュック地区トラパン・ベン村

●スリランカ

SARVODAYA 中部州	4基
露天式井戸	4基

キャンディ県ナゴラガマ村
キャンディ県マルガマンデニヤ村
キャンディ県コティカボラランダ村
キャンディ県ラムムラ村

SARVODAYA 北中部州	3基
露天式井戸	3基

ポロンナルワ県イキリウエラ村
ポロンナルワ県アッカラ 800 村
ポロンナルワ県ケガルガマ村

SARVODAYA 東部州	4基
露天式井戸	4基

アンバーラ県クンブルウエラ村
アンバーラ県モラガハバマ村
アンバーラ県タラピタオヤ西村
アンバーラ県タラピタオヤ左村

●ネパール

AFS-ネパール ネパール全域	15基
簡易水道貯水式井戸	1基
バグマティ県バクタプル郡チャングナラヤン町 Word No.8 ゴルサニートル	

簡易水道付パイプライン式井戸	7基
バグマティ県シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P. Word No.2 クンチョーク (3) バグマティ県シンドゥパルチョーク郡メラムチ N.P. Word No.9 ジャナリ地区タパ村&カルキ村(4)	

水道用大規模パイプライン取水井戸・貯水タンク	7基
バグマティ県シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P. Word No.10 ボテンパ: 取水井戸(1)、貯水タンク(6)	

●フィリピン

KALIPi スエバエシハ州	12基
ポンプ式井戸	12基

カピアオ町サンフェルナンドスール村 シティオサクラング

第3地区

カビオ町サンフェルナンドスール村 シティオサクラング
カビオ町サンフェルナンドスール村 第2ゾーン
カビオ町サントイネス小学校
カビオ町バゴン・シラン村 第3ブロック
サン・イシドロ町プロ村 第2ブロック
サンタローザ町リウェイウェイ村 第3ブロック
サンタローザ町リウェイウェイ村 第5ブロック
サンタローザ村 ソレダット村河岸地区
サン・イシドロ町プロ村 第2ブロック
ガバルドン市バントウグ村第1ブロック
ガバルドン市カマチレ村シティオグロッド

AFS-UMD ソルソゴン州 2基

簡易パイプライン式井戸 2基

マトノグ町マンバホグ村マンバホグ小学校
マトノグ町ナブラカン村 ヴィセンテ ドロタン小学校

●バングラデシュ

BDP ジャマルプール県 4基

ポンプ式井戸 4基

バスチャラ地区ラヘリカンダ村 BDP トレーニングセンター
バスチャラ村バスチャラ BDP 小学校
バスチャラ地区バイタマリ ウッターパラ村バイタマリ ウッター
パラ BDP 小学校
ゴラダップ地区ジョカ村ジョカ BDP 小学校

BDP ネットロコナ県 3基

ポンプ式井戸 3基

シムルハティ BDP 小学校
カルシリカ カオニア村カルシリカ カオニア BDP 小学校
ノワバラ村ノワバラ BDP 小学校

BDP ガジプール県 2基

ポンプ式井戸 2基

ナラヤンクル BDP 小学校
パダ ハルビス BDP 小学校

●ミャンマー

MAFS 4基

ポンプ式井戸 1基

タナン村

露天式井戸 3基

タム町ヴァルパバング地区
カラゴン村
ジャレンバイ ナウンゲット村

建設中の井戸 21基

インド 2基
カンボジア 0基
スリランカ 6基

ネパール 3基
バングラデシュ 2基
フィリピン 6基
ミャンマー 0基
ラオス 2基



インド アムラワティ県に完成したポンプ式井戸



スリランカ 井戸が出来て安全な水を得ることが出来た村人たち



フィリピン、井戸が出来て喜ぶ子どもたち

I-B. 子ども事業

1. 初等教育普及・向上

(1) アジア里親の会

子どもたちの健全な育成に必要な教育。そして、子どもたちは教育を受ける権利があり、大人はそのための環境を整えなければなりません。しかし、アジア地域では経済的理由やその他、教育を受けることが困難な状況下に置かれ、今なお、学校に通えない子どもたちが多くいる状況がある。本会では、そのような状況下の一人でも多くの子どもが、就学することにより基礎教育を受ける機会を得ることが出来るよう、インド、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、フィリピンの子どもたちを里子、日本側支援者は教育里親としてサポートするプロジェクトを実施。加えて中途退学学生を減少させ、農村部の子どもたちの教育向上をめざしている。

以前と比べると就学年齢での入学者の向上、女子教育に対する理解は改善されつつあるも就学途中での課題は以前多くある。特に、近年、経済発展が目覚ましいアジア諸国の中で、中学生になると工場などでの仕事に就くことを選び途中退学する子どもが多いことである。しかし、結局低賃金やきつい労働を優先的にさせられ、貧困のサイクルから脱出できない状況を生み出している。就学を続けることにより一歩先の知識の習得や思考力の向上を身に付けることの必要性への啓発やサポートが必要な状況である。

また、現地の経済状況や災害などにより、親が仕事を求めて都市部への移住することによる子どもの度重なる転校により、就学の途中脱落である。

加えて学校には、教材不足、低質な教育、教員不足、両親の無理解など様々な問題・課題が山積みで、その改善には地域(コミュニティ)を巻き込んだ学校教育の確立を行っていく必要がある。本支援では、里子の学費や彼らが通う教育施設の運営を支援。支援と同時に里親と里子が手紙を通じての相互交流を行った。2019年度は470人の里子を支援。里親の存在が里子たちの心の支えになり、学習への意欲や将来への希望を見出すなど、良好な方向に導くことに繋がっている。

アジア里親の会 里親決定状況 (2020年3月現在)

国名	2019年度里子数	里子累計数
インド	175	452
カンボジア	76	220
ネパール	151	276
バングラデシュ	40	234
フィリピン	28	33
合計	470	1,215

●インド

BSVIA 教育支援事業 78名

【カルナータカ州ビジャプーラ県ブルナプール村】

アジア里親の会の支援を通して、日印友好学園コスモニケタンの教職員の給与、教材、制服、文具などの運営の一部を支援した。学

校運営の自立のため有償の English Medium(主要言語が英語のクラス)スクールが開設2年目を迎えた。2017年度から2年間実施してきた転校などにより教育が遅れている子どもたちの学習向上のためのサマースクールは、政府の規制(学校の敷地内にて塾やサマースクールなどの特別教育は不可)により中止となった。

SSH 教育支援事業 7名

【タミルナドゥ州ナマカル県 7名】

家庭の事情により学校に通えない小学生、特に家族や両親、子ども自身が HIV に感染し、差別を受けている子どもたちを対象に、より多くの子が学校へ通えるために学費や制服代、学用品などを支援。加えて子供たちカウンセリングプログラムを実施しケアを行っている。(累計 70名)

RUDYA 教育支援事業 51名

【マハラシュトラ州ガッチロリ県パダトラ村】

日印友好学園パダトラ小学校に通う少数民族の子どもたちへの教育支援。遠方からの就学者に対しては寮にて生活できる体制を作り、通学困難により離学することを防ぎ、就学率の向上を目指している。2020年度から政府から総助成金の20%が初めて支給されることとなった。

AFS-Nagpur チャイルドアカデミー 39名

【マハラシュトラ州ナグプール県】

スラム街の子どもたちが継続的に就学し、教育を受け自立を促すことを目指した支援。加えて就学に必要な文具配布や読み書き教室を実施して、子ども達の学習意欲とモチベーション向上を目指した活動をおこなった。その他、老朽化したチャイルドアカデミーの建替えを行い、その建設費の一部を支援した。

●カンボジア

KAFS 教育支援事業 76名

【タケオ州】

タケオ州の小学校、中学校、高校の運営支援および、子どもたちへの教材や年一度の校外学習の支援。里子を含めた村の子どもたちを対象とした英語の課外授業の支援。

●ネパール

AFS-Nepal 教育支援事業 22名

【ノールパラシ郡カワソティ市ピトゥリ村】

ピトゥリ村のスリーサンティ小学校、ラーズラトナ小学校、ピトゥリ小学校の就学対象者の中で自費就学が不可能な子どもへの学費支援(継続就学と高校教育修了)と学校運営支援を実施した。

ヤンヤンビ学園 5名

【カトマンズ郡シタパイラ地域】

ヤンヤンビ学園近郊のシタパイラ地域とその周辺に住む、就学困難な子どもたちに就学の機会を与え、継続就学と高校教育修了を目指した支援を実施した。

AFS-Nepal ナウリンセカンダリースクール 70名

【カトマンズ郡ブタニルカクタ市チュニケル村】

チュニケル村の自費就学が出来ない貧農民や移住労働者の子

どもたちが安心して就学できるように、学費支援と学校運営支援を実施した。

AFS-Nepal ボテシパ村 教育支援事業	
チャンデスウォリ H.セカンダリースクール	24 名
AFS-Nepal サラソワティ L.セカンダリースクール	25 名

【シンドウパルチョーク郡インドラワティ G.P.Word No.10 ボテシパ】
2015 年の中部大地震により大きな被害を受け、家屋倒壊により経済状況が悪化した世帯や親を亡くした子どもたちの就学支援を引きつづき実施。高等学校卒業をめざし、安心して就学できるよう学費支援と学校運営支援を行った。

AFS-Nepal パクタプール教育支援事業	
クリエイティブ イングリッシュ セカンダリースクール	5 名

【パクタプール郡パクタプール市】
2015 年の大地震で大きな被害をうけ、その後経済状況が困難になった学生たちが就学を継続でき、10 年生 (中等教育終了学年) を修了し高等教育に進学するまでの支援を行った。

●バングラデシュ

BDP 教育支援事業	40 名
------------	------

【ダッカ・ガジプール県】
規程の小学教育を受けられない地域の子どもたちを対象に、中学校以上の就学を推進すると同時にしっかり学び高等学校卒業をめざした支援。特にバングラデシュでは小学校卒業以上の就学費の個人負担額が多くなるために中学校以上の就学率が下がる。そのため就学意欲のある子どもが継続的に就学できるよう、支援を行うと同時に教育向上を目指し補習の受講支援をおこなった。

●フィリピン

ASI 教育支援事業	28 名
------------	------

【カビテ州ダスマリネス町バリパラン】
【マニラ市マラテ町サンアンドレス】
マニラ市郊外のダスマリネス町バリパランに強制移住させられた家族の子どもたちと、彼らの元居住先であった国鉄線路沿いの地区、サンアンドレスにて移住先のない家族の子どもたちが、継続就学できるように、授業料、教科書、教材、学校補習等を支援した。

2. 教育設備・環境整備

(1) 学校建設

(2020 年 3 月現在)

国名	2019 年度建設数	校舎棟累計数
インド	0	24
インドネシア	-	2
カンボジア	0	42
タイ	-	10
中国	-	1
ネパール	2	※44
パキスタン	-	2
フィリピン	0	8
ベトナム	-	3
合計	2	136

※学校及び研修施設、コミュニティホール数を含む

●ネパール

AFS-Nepal 小中学校増設及び設備支援	1 棟
------------------------	-----

【シンドウパルチョーク郡メラムチ ジャミレ地区】スリー ゴルメスウォリ ベイシック スクール
校舎 1 棟
※地震により被害を受けた学校校舎復旧に対する建設を実施。詳細はネパール中部大地震支援事業の欄に記載。

AFS-Nepal 小中学校増設及び設備支援	1 棟
------------------------	-----

【シンドウパルチョーク郡インドラワティ G.P.Word No.10】スリー サラソワティ小中学校
校舎 1 棟

(2) 教育環境整備

●インド

BSVIA 日印友好学園コスモニケタン	
---------------------	--

【カルナータカ州ビジャプーラ県ブルナプール村】
コスモニケタン学園の小学校に必要な机、イスを供給 60 台 (130 人分を提供した。残り 80 台にて全校生徒に供給される予定である。

RUDYA 日印友好学園パダトラ小学校	
---------------------	--

【マハラシュトラ州ガッチロリ県パダトラ村】
2019 年度は、出身村の学校が封鎖され、両親から離れて生活をおくる寮生を対象に、二段ベッド 30 個、マットレス、枕、枕カバー、シーツ (各 60) の支援を行った。加えて、インド共和国記念日に、全校生徒対象に新しい制服、教科書、教材および遊具を支援した。

AFS-Nagpur チャイルドアカデミー	
-----------------------	--

【マハラシュトラ州ナグプール県】
スラム街の子どもたちが継続的に就学し、教育を受け自立を促すことを目指した支援。本年度は、老朽化したチャイルドアカデミーの建替えを行い、その建設費の一部を支援した。建設に関しては、COVID-19 のため、大幅に遅れており、ロックダウン明けに建設再開を予定。

3. HIV/AIDS 子ども感染予防

●インド

SSH HIV/AIDS 支援	7 名
-----------------	-----

【タミルナードゥ州ディンディガル県・ナマカル県】
家族の一員が HIV/AIDS に感染し、安定した生活を送ることができず、子どもへの教育継続のままならない世帯に対して、栄養食の配布、抗 HIV/AIDS ウィルス薬の定期接種、HIV/AIDS に感染しながら生活するためのトレーニング、マイクロクレジットを支援している。今年度もタミルナードゥ州ナマカル県、ディンディガル県の農村 5 世帯を支援した。タミルナードゥ州において、HIV/AIDS の感染経路となっていた移動労働者の感染率は、これまでの支援の結果、減少傾向にあり、2019 年度も、支援地内において、新規に HIV/AIDS に感染した世帯はなく、現地の指導効果があらわれている。

4. 栄養改善・ストリートチルドレンの保護・教育支援

●ネパール

AFS-Nepal 栄養改善支援事業 小学校給食

【ルンビニ県ノールパラシ郡カワソティー-N.P.ピトゥリ村】

ネパールは自給率がほぼ 100%であるが、それは農村の暮らしの中で、自給できる範囲の食物で食事をしており、その食品種は少なく、その為日常の食事から摂取できる栄養素に偏りがある。食品種を増やすなどの工夫ができないその原因は大きく二つあり、一つ目は経済的な要因。二つ目は栄養への理解不足。小学校での給食と栄養知識普及を行うことで、子どもたちの健康や成長不全状況が改善されることを目指している。農村部ではカロリー確保するために炭水化物中心の食生活で、成長期の子どもたちに必要なたんぱく質をはじめとした栄養素の摂取が不十分である。ピトゥリ村スリーサンティ小学校の約 205 名の生徒を対象に、週に一度、卵と牛乳の給食を継続的に支援(25 年間)。学校のプログラムに組み込まれ教育的要素を兼ねたプロジェクトとなっている。継続支援を行う事で就学児童たちの健全な学校生活と健康保全に繋がっている。

●フィリピン

ASI ストリートチルドレン支援

【カビテ州ダスマリネス町パリパラン】

【マニラ市マラテ町サン・アンドレス】

マニラ市内の国鉄線路沿のサン・アンドレスにて、廃材でつくられた家で生活を送る世帯、また一部がパリパランに強制移住させられ、安定した経済状況を送ることが難しい世帯に対して、子どもたちが教育の道から外れないよう、支援を実施。今年度も、子どもたちへの学用品等の支援、学校の補習授業、衛生・環境教育、スポーツやダンスなどのレクリエーション教育、リーダーシップトレーニング等を実施し、子どもたちの自信を高めることができた。今年度も支援した子どもたちのドロップアウトはなかった。また保護者勉強会も開催し、子ども達が継続して学べる環境を整えることに力をいれている。



インド・パドラ小学校の授業風景



パドラ小学校の寮に設置された子どもたちのベッド



インド・コスモニケタン学園の教室に整備された机と椅子



ネパール 給食を嬉しそうに食べる子どもたち

I-C. 貧困対策事業

1. マイクロクレジット支援・能力開発

(1) マイクロクレジット支援

●スリランカ

SARVODAYA 農村地域の能力開発

【スリランカ全域】

スリランカ提携団体サルボダヤのビジュバ・ニケタン国際平和・瞑想研修センター(人々の心に眠る能力を覚醒させる)およびサルボダヤ・スワセタ・セワ(孤児の教育・障害者の職業訓練支援、高齢者支援)に昨年に引き続き、ボランティアシニアスタッフ、クラシリ、ビタナワサムを派遣し、その活動を支援した。

(2) 小規模産業育成支援

●インド

HDSI 低所得層の女性による養鶏を通じた生活改善

【マハラシュトラ州アムラワティ県アチャルプール地区ダリヤバード村】

2018年に養鶏や小屋、エサ、ワクチンなどを提供したアチャルプール地区ダリヤバード村の女性の自助グループ(SHG)の20世帯を対象に、養鶏トレーニング(感染症の防止など)、養鶏から得た収入の貯蓄などの指導を行った。

AFS-Sangli 女性の自助グループへの山羊の飼養支援

【マハラシュトラ州サングリ県カナプール地区ビタ村】

AFS-Sangli が支援する女性の自助グループ(SHG)の中から独身女性、50名を対象に、繁殖可能な、山羊2匹を提供。飼養、繁殖、販売から安定した所得が得られるようにした。今年度は、カナプール地区ビタ村の独身女性50名を対象に実施した。今年度は、このプロジェクトモデルを確立するために、SHGの中でも貧しいながら、安定して貯蓄活動に熱心な独身女性50名を対象にした。次年度からさらに状況の厳しい女性に対してもこれらのプロジェクトに参加させ、所得を支援していく予定である。

●カンボジア

KAFS 貧困層の村への開発支援資金(旧マイクロクレジット)

【タケオ州ドーンケオ郡、トラン郡】

2016年度からカンボジアのマイクロクレジット事業は、政府の銀行法による規制により継続が不可能になり、活動を一旦中断。2019年度から「貧困層の村への開発支援資金」として、再開。貸付残高は、全て村の開発委員会に供与され、委員会が、これまで対象としてきた村人に無利息にて資金を貸付する形で実施。貸倒があっても補填する資金(これまでであれば利息収入)がなく、貸倒があっても借り手への責任が少ないため、返済率の悪化が予測されるため、今年度は、これまでで一番確実性の高く、この活動に最も熱心だった人たちのみにテスト的に貸付をおこなった。

●ネパール

AFS-Nepal 小農家収入向上支援

【シンドウパルチョーク郡インドラワティG.P.10地区(旧ボテンパ村)】

農業による暮らしが成立せず出稼ぎや移住が多発する農村部の人々が安定収入により暮らしが成り立つことを目指し、持続可能な地域づくりを目指して農業支援を実施。シンドウパルチョーク郡では農業生産向上プロジェクトを実施するにあたり各集落のリーダー組織を結成し、有機農業をめざした土壌改良のためのたい肥づくりなどのトレーニングを実施し、30名が参加した。また、将来的に地域のために農業指導者となる青年1名を農業大学へ奨学生として農業大学への進学にサポートを開始した(4年目の1年目)。

(一部、平成30年度日本NGO連携無償資金協力支援事業)

●フィリピン

AFS-UMD 農漁民への小規模産業育成支援

【ソルソゴン州マトノグ町ゲナブラン村】

沿岸地域の養殖開発や薪のために失われたマングローブを取り戻し、漁業に携わる人々が持続的に魚が生息する漁場を作るために2012年度から開始したマングローブ植林事業。今年度は計10,000本、累計110,700本のマングローブを植林することができた。一年通じてメンテナンスや苗床づくり、植林を各村々で自主的に行えるようになり、環境保全の意識が高まってきている。

成長が早く、海岸沿いに根をはり、土地を守ってくれるバニの植林への取り組みも始まった。

(3) 職業訓練

●インド

IJSDC インド、カルナータカ州バンガロール県における低所得層の若者の安定した雇用確保のための職業訓練学校建設事業

【カルナータカ州バンガロール県バガルール地区バガルール村】

平成29年度日本NGO連携無償資金協力支援事業からの資金供与のもと、2019年12月18日にバガルール村にて完成した職業訓練学校(Gyantec と呼称)は、インド中央政府の職業訓練・実業家育成省の「Skill India プログラム」の認可の基礎技術研修(自動車工・電気工)、職業倫理研修(サービス業、ホテルなど)、小売業研修、ビジネスマナー研修、英語研修を実施した。

規定通り、技術や倫理研修の座学が約3か月、インターン3か月が合計2期(6か月毎)にわたり実施された。第1期は、28名、第2期は25名が参加した。



インド・職業訓練学 電気の基礎技術研修授業の様子

2. 保健衛生指導・医療

(1) トイレ建設

(2020年3月現在)

国名	2019年度完成	累積
インド	-	1,205
カンボジア	-	4
バングラデシュ	-	275
パキスタン	-	6
ネパール	26	1,004
タイ	-	9
ラオス	-	1
フィリピン	1	1
合計	27	2,505

●ネパール

AFS-Nepal 農村トイレ建設支援 (バイオガスプラント設置付帯事業) 26基

【バグマティ県シンドウパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区 6地区】

ネパールでは、バイオガスプラント設置時にトイレの設置が条件付けされている。そのためにバイオガスプラント設置時にトイレ設置を始める農家が多くなっている。今年度はバイオガスプラント 30基の設置に対し 26世帯にトイレの設置が行われた。

●フィリピン

AFS-Antique 学校のトイレ・シャワー室建設支援 1棟 【アンティーク州シバロン市】

ヴィラフォンタ小学校は丘陵部に位置し、山岳部族の子供が多く通っている。約 200名の生徒たちは泥だらけの山道を通学しており、子ども達が衛生的で健康的な生活習慣を学校生活で学べるよう、トイレ・シャワールームの建設を支援した。

(2) 医療支援

●インド

RUDYA ムスカ村健康増進プロジェクト 【ガッチロリ県ダンノーラ地区ムスカ村】

2017年11月に開設したムスカ村の病院に対して、常勤の看護師 1名、事務員 1名の支援と、週 2回、ガッチロリの町から派遣している医師の診療を支援した。その他、処方薬(感染症用の抗生物質、痛み止め)、注射、その他医療機材などの維持管理を支援し、病院にて住民ヘルスカードの管理を行っている。病院設立以降、毎年 4回、ムスカ村から遠方の村を対象に、医療キャンプを実施していたが、今年度は、運営や病院の維持の負担がかさみ、医療キャンプの実施ができなかった。

(2019年度連合愛のカンパ助成事業)

●ネパール

AFS-Nepal 地域医療向上支援事業 【バグマティ県シンドウパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区

(旧ボテシパ村)、カトマンズ郡ブッタニルカンタ N.P.(旧チュニケル村)、【ルンビニ県ノールパラシ郡カワソティ-N.P.ピトゥリ村】

ネパールの農村部の学校では性教育を実施できている学校がほとんどない状態である。その為、女子生徒は月経を恥ずかしいものであると思い、正しく理解していないことが多い。母親からの家庭教育を得ている割合も大変低い。その為に自分で堪えている子どもが多い。その上、生活上の制限がかけられる習慣がある。女子学生が自分の健康を守ると同時に、思春期の大切な時期の学校生活を安心して送れるように、日本の有志により布ナプキンを作成し、そして自分たちの体の事を正しく理解するために性教育を実施。本年は 1地域と 3校を増やし、3地域 6校での活動に拡大した。対象地で女生徒たちの知識と意識向上につなげた。

3. 提携 NGO 運営助成

本会の国際事業の柱の一つとして、国際ネットワーク AFS の各国国会 (NGO) の活動の強化は必須である。しかし、発展途上国では NGO の自己資金調達が困難であり助成を必要としている。自立運営を目指して、以下の各団体の運営に協力した。運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所諸経費も本会で負担。

RUDYA(インド)

運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所諸経費も本会で負担。

HDSI(インド)

インドにおけるグリーンスカウト運動を全国的に進めるため、運営費及びプログラム経費を一部補助。

KAFS(カンボジア)

運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所諸経費も本会で負担。

SARVODAYA(スリランカ)

サルボダヤの元スタッフのクナシリ氏の活動費を支援。水事業継続、サルボダヤの瞑想研修センターの人材育成、孤児の保護と教育・障害者の職業訓練、高齢者の支援施設であるサルボダヤ・スワセタ・セワにおけるファシリテーターの育成を行った。



インド 耳の感染病も速やかに受診でき、悪化する子どもが減少

I-D. 環境事業

1. 植林・水源涵養林養育

持続可能な社会づくりに向けて、災害や環境破壊から地域の回復力（レジリエンス）強化においても、環境保全は必要不可欠である。また地球温暖化が世界の大きな問題となり、その原因の多くは温暖化効果ガスといわれプラスチック使用に注目されているが、全体原因の20%が森林減少である事も事実である。植林は大気浄化という大きな役割と共に、我々の活動の根幹にある、水を贈る活動の安全な水の共有のための水資源を確保するためにも必要不可欠であるのが森林である。また、地域が持続可能な地域づくりにおいても森林は不可欠であり、農作物の収穫量の減少により農業を捨て、都市部への労働移住につながっている。それは、更なる環境汚染悪化の道をたどる要因にもつながる。これらを防ぐためには、地域のリソースを活かしながら、自然環境が自らの社会にもたらす影響を教育や啓発を通して学び、自然を守る心を育て、環境保全を実践していかなければならない。

2019年度は、インドネシア、ネパール、フィリピンの3カ国にて植林を実施した。またインド、ネパールで環境改善活動を実施し、地域の人たちが自身の地域づくりを行うための活動を実施。ネパールではバイオガスプラント設置により再生可能エネルギーの活用と普及を行い、これらの活動により地域環境を守り、改善し、持続可能な地域づくりへ繋げることが期待される。

(1) 植林

(2020年3月現在)

国名	2019年度植林	累積
インド	-	712,205
インドネシア	2,500	207,460
カンボジア	-	18,000
スリランカ	-	675
タイ	-	20,500
中国	-	1,105,525
ネパール	1,870	303,524
パキスタン	-	4,560
フィリピン※	11,000	166,515
バングラデシュ	-	26,500
	15,370	2,565,464

※フィリピンマングローブ植林は貧困対策事業として実施。

●インドネシア

HOSANNA 植林 1,000本

【北スラウェシ州タリセ島エアバヌア村】

2018年度から、環境保全の一環として、北スラウェシ州の孤島タリセ島の孤島にあるエアバヌア村の植林は、2019年度も村の人たち160名の参加のもと、実施した。日本とインドネシアのジャカルタからボランティアにて合計28名が参加。村の経済的一助になるよう果樹の植林（ジャックフルーツやマンゴーなど）を1000本を実施した。

AFS-Aceh 植林

1500本

【アチェ州アルーナガ村】

アチェ州は、2004年12月に発生したインド洋スマトラ沖大地震・津波の最大被災地。多くの国際機関の援助により村々は復興したが、災害が風化し、地球温暖化の影響が押し寄せる中、人々はますます環境を汚染するようになった。災害当時に防潮林であるマングローブの植林を行った AFS-Aceh のスタッフと地元の大学生との協力により2017年に再び環境保全と地元の小学生の環境教育を目的に、マングローブの植林を実施し、子どもたちに環境保全への気づきを与えることができた。本年度は2018年度からの3か年計画の2年目としてマングローブの植林100本と地元の小中学生に対する環境教育を実施した。多くの子どもたちが植林、環境教育クラスに参加し、津波の風化への抑制へと繋がった。

(2019年度公益信託地球環境基金助成事業)

●ネパール

AFS-Nepal コミュニティー フォレスト

222本

【ルンビニ県ノールパラシ郡カワソティN.P.ビトゥリ村】

地域住民の手による環境保全を目的とした植林活動を実施。FUG（フォレストユーザーズグループ）はコミュニティフォレストとして地域の森作りを実施している。特に地域の水害及び水による土砂崩れを防ぐための植林を実施し、毎年植林を続けてくことで村を守る役目や森の形成につながっている。近隣の学校がグリーンスカウト活動の一環として携わると共に今年度は京都暁星高等学校の研修を本地で実施し共に植樹活動を実施し、セイバ ペンタンドラ（アオイ科）等を中心に植樹をおこなった。数年前からの植樹した木が成長し森を形成し、現在国立保護公園の一部となりまたサイ等の保護動物が森林地内に現れるようになってきた。

AFS-Nepal コミュニティー フォレスト

848本

【バグマティ県シンドウパルチョーク郡インドラワティG.P.10地区(旧ボデハ村)】

地震により住居地の草木なども多く倒壊してしまった中、ようやく家が完成し、暮らしを取り戻そうとしている地域に住環境整備と土砂崩れを防ぐために植林活動実施。白樺種やマンゴー樹等の植樹を実施した。加えて地域の公園づくりを目指し、桜やバラなどの花樹を中心とした植樹を行った。また、地域の学校3校の緑化を目指して植林活動の実施を始めた。加えて、現地の緑化を長期的に推進していくことを目指し果樹等の苗木2,000本の育成を実施している。(2019年度緑の募金助成事業)

AFS-Nepal コミュニティー フォレスト

800本

【カトマンズ郡ブタニルカンタN.P.チュニケル村】

農業で生計を立てているこの地は、山間にある村です。村に接する山の緑化を行うことが、村を守ることに繋がるためにコミュニティフォレスト作りに長年取り組んでいる。今年は等とあわせて今年は常緑樹であるクスノキを中心にグアバ、グズベリー等の果樹をも植樹し始めることとした。

●フィリピン

AFS-Pandan パندان水源の森植林 1,000本

【アンティーク県パナイ島パンダン町】

マロンパティの水源地を守る森保全のための植林を実施。水道局が苗木を作り、地元の小学生や中学生・高校生が植林をおこなうと共に定期的に草刈りや苗木の成長の確認をおこなっている。地域の環境保全の意識も高まり、周辺の清掃等も積極的におこなわれるようになってきた。

2. 環境改善・国際グリーンスカウト

国際グリーンスカウト(GS)運動とは「Think Globally, Act Locally(地球規模で考え、地域で行動を)」をモットーとした「地球市民による地球環境保全」に取り組む市民活動である。1986年に本会が提唱。アジアにおける「理解と協力と連帯」の輪を広げる実践活動の一環として、AFSの海外ネットワークを通じて16カ国にて展開した。アジア各国に草の根市民による環境保全活動を広げることを目的としている。本年度はインド、ネパールにて、環境保全啓発のための運動やセミナーが実施された。

●インド

HDSI グリーンスカウト運動支援 1校

【マハラシュトラ州アムラワティ県チャンドラバザール地区】

チャンドラバザール地区は、アムラワティ県においても農村と都市部を結ぶ橋として知られており、昨今のアムラワティ県中心地の経済開発により、農村部の移住者が、チャンドラバザール地区に居住するようになり、一部はスラム化し、環境が悪化が進んでいる。HDSIは、チャンドラバザール地区にて小学校(英語を言語とする)を運営しており、この子どもたちと共に毎月1回、グリーンスカウト運動として、清掃活動や園芸、環境保全劇などを実施している。2019年度も引き続き、その小学生たちへの環境啓発・教育を行った。

●ネパール

AFS-Nepal 小学生環境セミナー 3校

【シンドウパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区 (旧ボテシハ村)】

環境活動により地域環境、学校環境活動を行うためのジュニアリーダー育成を行う小学生対象の環境セミナーを4月は地区内の1校、12月は地区内の3校の児童及び教師を一同に集め実施。周りの環境及び緑の役割について理解を深め、実際に植林作業を行うなどの活動、ゴミや身の回りのエネルギーについて学ぶと同時にネパールの特別なエネルギーであるバイオガスと木の関係を学び植林の大切さの理解を深め、持続可能な地域づくり(含 学校)を行うためにどのような行動が必要なのかを考え、最終的に目標をたて、実施していくため学校全体でシェアし合った。3月に2回目を実施する予定であったが、コロナウィルス感染予防のためロックダウンが実施されたことで、実施を中止。

参加校=チャンデソワリ小学校、サラソティ小学校、ジャネソワリ小学校

参加者=各学校より児童5名+教師1名

※一部、りそなアジア・オセアニア財団環境プログラム助成にて実施

AFS-Nepal グリーンスカウト ローカルGS組織づくり

【カトマンズ郡ブタニルカンタ N.P.チュニケル村、ノールパルシ郡カワソティ N.P.ピトゥリ村】

村の青少年を中心としたローカル GS づくりを奨励。環境改善に向けての方法を考え、行動できるように促している。ピトゥリ村 GS は、地域の子どもたちが小グループを作り、環境美化推進運動を実施。住居周辺道の清掃活動をスリーサンティ小学校、ラズマンディル小学校、ピトゥリ小学校の生徒と地域住民が協力して継続実施している。チュニケル村 GS は、ナウリンセカンダリースクールの里子たちがその役割を担い地域清掃や河川清掃、植林を実施し、積極的に環境保全活動を実施した。

3. 再生可能エネルギー資源活用・普及

●ネパール

AFS-Nepal バイオガスプラント設置及び普及事業 24基

【シンドウパルチョーク郡インドラワティ(旧ボテシハ村)】

今回の支援により年間の薪の使用料を約76,800kg、また二酸化炭素排出量を120トン(1基当たり年間5トン減少)抑えることができた。また、1基の設置につき、薪の年間使用量と1世帯当たり4,000Kgの使用量の内70~90%削減することができ、国土の30%台にまでに減少(以前は70%)した森林面積の回復にも繋がった。資源がないネパールでは、身近にある牛糞を利用したバイオガスが、確実な燃料確保につながると同時に、森の保全に繋がるために村人に着目されている。そして現在特に注目されているのが、ガスが出た後に排出される糞のカス、スラリーの農業への肥料利用である。対象エリアは、地震よりの復興の中、住宅再建と共にバイオガスプラントを設置を推進し、生活の基盤を整えると同時に、環境を考えた地域づくりをめざすために本事業を昨年試験的に実施し、本年度より本格的に始動した。バイオガスプラントの設置は、環境保全のみならず農村地区の人々の生活改善(薪採集を担っていた子ども、女性の重労働の軽減、薪の煙で目や肺を患っていた女性の健康の改善)にも大きく寄与している。同時に普及セミナーの実施を行い、トイレの併設も進み衛生向上にも繋がっている。

【現在まで累計1,168基設置】

※本事業の内20基の設置は、りそなアジア・オセアニア財団 環境プログラム助成により実施



ネパール 植林活動

I-E. サイクル・エイド事業

1. サイクル・エイド

「放置自転車を再生し、世界の子どもたちに贈ろう!」を合言葉に誕生したサイクル・エイドは、放置自転車を府内市町村の協力のもと、修理、再生し、海外の子どもたちに贈る事業。大阪府内の放置自転車の数は年間 50 万台にのぼり、内約半数は引き取り手がないため大きな社会問題、環境問題となっている。一方、アジアやアフリカでは学校の数が十分でないため、長時間歩いて学校に通うか、遠すぎるために通学できない子どもたちが数多くいる。こうした子どもに自転車を贈ることで、教育環境の向上などに寄与し、国際交流の絆を深めることをこの事業の目的とする。放置自転車を修理、再生し、リユースの好循環によって、大阪府内の環境負荷を軽減し、資源循環型社会に向けて地球環境に優しい自転車の活用を促進することを目指す。2005 年度より、本会が事務局として事業を実施。大阪府等がメンバーとなったサイクル・エイド支援会議を設置し、事業を円滑に進めていくようサポートしている。

(1) 自転車の寄贈

◆自転車の提供 計 720 台

放置自転車を収集するために、府内各市町村へ協力の呼びかけを実施。今年度は下記の 7 ヶ所から協力を得ることができた。回収された自転車は各市で選別、修理、再生後に泉大津市にある堺泉北港へ運搬され、海上輸送された。

◆府内協力市及び台数

堺市 200 台、八尾市 80 台、泉佐野市 100 台、大阪市 100 台、泉大津市 50 台、高石市 50 台、東大阪市 140 台

今年度はタイに 370 台、カンボジアに 350 台、合計 720 台の自転車が寄贈された。事業開始以来、アジア、アフリカの 10 ヶ国に合計 32,150 台の自転車と 2 台の車椅子を贈ることができた。

タイ 370 台

タイに贈られた自転車は、ナン県の子ども達の通学に加え、コミュニティワーカー、医療従事者の巡回、貧しい農民、環境保全の活動に従事する人々に手渡され、有効に活用されている。

地域では事業を支えるためのネットワークが構築され、自転車の修理・メンテナンスをおこない、受益者達が安全に長く自転車を活用できるよう、サポート体制がつくられている。また、自転車が手渡される前に、受益者には安全講習をおこなわれ、メンテナンスも含め事故のないよう、指導がおこなわれた。

遠方から通う子ども達にとって、就学継続のために自転車は非常に大きな助けとなっている。また、貧しい農民達にとって自転車は貴重な移動・運搬手段で、今回の寄贈をきっかけに、NGO、地方行政、村人、学校の先生、保護者、地元有力者等によるネットワークが形成、ナン県以外の県とも連携しあいながら協力体制が広がった。今後も人と環境に優しい自転車を通じて地域の生活改善に取り組んでいく。

1 月 23 日～26 日には国際交流プログラムを実施、自転車の有効活用について様々な意見交換がおこなわれた。ナン県では自転車の町として、今後も安全で人と環境にやさしい自転車活用方法について、取り組んでいくこととなった。

カンボジア 350 台

カンボジアに贈られた自転車は、孤児院や学校に通う子ども達や先生、地域のコミュニティワーカーや自転車を必要としている農民達に寄贈され、通学や仕事のために活用されている。

自転車の利用で地域の農民達が効率よい生活環境に変えていくことにより、女性の社会進出や生活向上へつながっている。また、勉強を続けたいが、家庭の経済状況のため毎日の通学や進学をあきらめていた小・中・高校生の子ども達に寄贈され、毎日安全に通学し、継続して教育を受けられるようになった。自転車を受け取った子ども達や家族はとても喜び、大切に自転車のメンテナンスをおこない、またより熱心に勉強や仕事に取り組むようになってきている。

自転車の寄贈は、公平により必要とされている人々に贈れるよう、政府、NGO、村の組織等で協力体制をとりながら、話しによってきめられている。今年度はカンダル州サン地区のブレックアルベン村やソンサオス村等で必要としている人々に寄贈された。受益者の決定については現地提携団体と村のリーダーが各家庭を訪問し決定された。まだ、多くの希望者が待っており、事業の継続が求められている。

(2) サイクル・エイド関連国内プログラム

◆ サイクル・エイド支援会議開催・意見交換・事業報告会

日程:2019 年 6 月 14 日(金) 場所:大阪府庁舎

参加者:11 名

内容:寄贈先での自転車利用状況や活用方法について報告会をおこなった。現地で自転車を必要としている村の状況や子ども達を取り囲む環境や日本と寄贈国の国際交流についてより深く知ってもらいことができた。また、この事業から派生して環境保全の取り組みや、福祉環境の改善、地域の他の事業への協力体制も徐々に強まってきていることから、事業を継続しておこなっていくこととなった。

◆ 泉大津フェニックス野外コンサート

日程:2019 年 8 月 31 日(土)、9 月 1 日(日)、9 月 7 日(土)、8 日(日)、14 日(土)、15 日(日)

場所:泉大津フェニックス

主催:泉大津フェニックス夏フェス 19 実行委員会事務局

来場者数:合計 約 100,000 人

<内容>

泉大津フェニックスが誕生した新しい町「夕風町」は、空と海、そして全面芝生という心地よい空間で野外コンサート等各種イベントが開催されている。そこで RUSH BALL2019、OTODAMA18「-」19、PARASITE DEJAVU が開催され、多くの音楽ファンを魅了。コンサート主催者の多大なる協力の下、会場内ブースでサイクル・エイド事業の活動紹介とチャリティ出展により海上輸送への協力を得ることができた。

◆ 第 45 回四條畷市民の集い

日程:2019 年 10 月 27 日(日) 場所:四條畷市

主催:市民憲章推進協議会

<内容>

サイクル・エイド事業の広報活動として展示と活動紹介、チャリティ出展をおこない、海上輸送への協力を得ることができた。

◆国際交流プログラム

【第36回土と水と緑の学校】

日程:2019年8月5日(月)~10日(土)

場所:新宮市

内容:子どもたちの自然環境教育プログラムにタイより参加。大自然での生活体験を通じ、自然の成り立ちや不思議を知り、人間を含む生態系の営み、自然保護を学び、未来を担う子ども達により豊かな心を育てる環境教育や地域環境保全等について意見交換をおこなった。

【タイ 国際交流プログラム】

日程:2020年1月23日(木)~26日(日)

場所:タイ ナン県 /参加者:約100名

内容:自転車寄贈先であるナン県の農村地域で自転車贈呈式典がおこなわれ、行政・学校(教師・保護者・生徒)・農民等の村人達、自転車協会を対象に、現地提携団体とともに本事業の目的・目指すところ・事業内容等の紹介、説明をおこなった。様々な分野の協力者と意見交換をおこなうことで、今後の事業の必要性や取り組みについて理解が深まった。市民によるパピーバイクネットワークがつくられ、安全で効果的な自転車利用についてサポート体制が整えられた。また、地球や地域の環境保全について意見交換では次世代のために協力体制を組み、継続した活動をおこなっていくことを確認した。

【カンボジア 国際交流プログラム】

日程:2020年2月20日(木)~25日(火)

場所:カンボジア カンダル州 /参加者:約200名

内容:自転車寄贈先であるカンダル州の孤児院や村々、学等で自転車贈呈式典をおこない行政・教師・保護者・村のリーダー・孤児院スタッフ・農民等を対象に、現地提携団体とともに本事業の目的・目指すところ・事業内容等の紹介、説明をおこなった。

自転車を必要とする子どもたちの通学環境や村での生活の様子を知ることが出来た。また、地元の協力者と意見交換をおこなうことで、今後の事業の必要性や進め方や取り組みについて話し合うことができた。また環境にも優しい自転車を活用することで、地球環境保全への意識を高め、同じ地球市民としての視点を持ち、互いに協力しあう国際交流の推進活動を拓いていくことが期待される。自転車を通じて、日本と各国の国際交流が活発になり、また、事業を継続することで人と人の絆が深まり、草の根の理解と協力の輪と協力の輪が広がっている。近畿大学国際学部 of 学生達を中心となって企画した国際交流プログラムでは事業の説明と共に日本の文化の紹介等もおこない、共に学び合い友情を育む場となった。さらに自転車寄贈先の村にホームステイし、自転車を贈られた子ども達の家庭訪問やインタビューをおこない、自転車の利用状況について詳しく知ることができた。

※この事業は競輪の補助を受けて実施しました。



タイでの自転車贈呈式

I-F. ワークキャンプ・視察

1. ワークキャンプ

国際ワークキャンプを通じて本会の海外プロジェクトを支援すると共に、現地での共同作業を通じて国際理解・文化交流の機会とし、本会の活動に対する理解と協力と連帯の輪を内外に広げることを目指し、毎年アジア各国で実施している。

2019年度は、フィリピン、カンボジア、ネパール、インドネシア4カ国、11回のワークキャンプを実施、のべ202名が参加した。

1. フィリピンマングローブ植林交流キャンプ

期 間:2019年5月14日~5月19日

場 所:ソルソゴン州マトノグ町

参加者:7名

内 容:マングローブ植林、農業支援、国際交流

2. 第49回イオン労連カンボジアワークキャンプ

期 間:2019年8月6日~8月10日

場 所:タケオ州トレン郡プレイスリュック地区トラパン・ベン村

参加者:34名

内 容:井戸建設、交流

3. ネパール植林ワークキャンプ

期 間:2019年8月9日~8月15日

場 所:シンドゥバルチョーク郡インドラワティG.P.10地区

参加者:3名

内 容:植林活動、環境セミナー参加、交流

4. 第50回イオン労連カンボジアワークキャンプ

期 間:2019年8月20日~8月24日

場 所:タケオ州トレン郡クバブ地区タマダ村、サーモア・クロム村

参加者:35名

内 容:井戸建設、交流

5. イオンリテールワーカーズユニオン

第9期アセアンセミナー (インドネシア)

期 間:2019年9月4日~6日

場 所:北スラベシ州タリセ島エアバヌア村

参加者:28名

内 容:植林、交流

6. 京都暁星高等学校 ネパールワーク研修ツアー

期 間:2018年9月17日~9月24日

場 所:カトマンズ郡ブッタニルカント N.P.チュニケル村(ナウリンセカ
ンダリースクール)、ノールパラシ郡カワソティ市ピトゥリ村

参加者:11名

内 容:植林活動、交流、文化視察

7. イオン九州労組・マルナカ労組・マックスバリュ中部労組

カンボジアワークキャンプ

期 間:2019年11月12日~11月16日

場 所:タケオ州トレン郡プレイスリュック地区クデイ・ルン村

参加者:20名

内 容:井戸建設、交流

8. 第51回イオングループ労連カンボジアワークキャンプ

期 間:2019年11月19日~11月23日

場 所:タケオ州トレアン郡ロネアム地区プレイパエイ村
参加者:25名
内 容:井戸建設、交流

9. 第52回イオングループ労連カンボジアワークキャンプ

期 間:2019年11月20日～11月24日
場 所:タケオ州トレアン郡ロネアム地区トラペアン・ロンパエック村
参加者:22名
内 容:井戸建設、国際交流

10. ネパール ワーク&事業視察ツアー（ネパールへのかけ橋 20周年記念）

期 間:2019年12月28日～2020年1月4日
場 所:シンドゥパルチョーク郡、カスキ郡、カトマンズ郡など
参加者:12名
内 容:里親の会支援学校での交流、ミニコンサート（サクソフォン）、飲料水供給事業視察、N連事業地視察、ボカラ観光他

11. インドネシア、アチェワークキャンプ

期 間:2020年1月10日～1月17日
場 所:インドネシア、アチェ州
参加者:5名
内 容:植林、環境教育、国際交流
(2019年度公益信託地球環境基金助成事業)

2. 海外プロジェクト視察

1. ネパール 支援事業視察(N連関連)

期 間:2019年3月20日～4月20日
場 所:カトマンズ、シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区
派遣者:熱田典子
内 容:平成30年度日本 NGO 連携無償資金協力支援事業の事業調整、N連事業関連トレーニング実施他

2. ネパール 支援事業視察

期 間:2019年4月25日～5月9日
場 所:カトマンズ郡ブタニルカンタ市、シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区、バクタプル郡、ノールパラシ郡、チトワン郡
派遣者:熱田典子、東代清隆氏
内 容:飲料水供給事業支援事業、バイオガスプラント支援事業及び環境事業(植林活動)、教育事業のセミナー等の実施、農業支援事業調整及び視察

3. タイ AFS/ICO 会議

期 間:2019年6月15日～6月21日
場 所:バンコク
派遣者:村上公彦
内 容:AFS/ICO 会議他

4. フィリピン 事業関連イベント参加

期 間:2019年7月10日～7月13日
場 所:マニラ
派遣者:湯川剛、小原純子、岡本佳子
内 容:日本映画祭「セカイチオイシイ水～マロンパティの涙～」上映会参加、国際交流等

5. ネパール 事業視察 (N連関連)

期 間:2019年7月27日～8月8日
場 所:シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区、バクタプル郡、カトマンズ

派遣者:松川一人氏、熱田典子
内 容:N 連事業農業トレーニング実施、飲料水供給事業、在ネパール日本大使館へ報告

6. ネパール 研修視察

期 間:2019年8月1日～8月5日
場 所:シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区、バクタプル郡、カトマンズ
派遣者:熱田典子他、ジャングル・コアの方々
内 容:事業調査及びコンサルティングを受ける。

7. ネパール 事業視察

期 間:2019年10月29日～11月9日
場 所:シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区
派遣者:熱田典子
内 容:N 連事業農業トレーニング実施、飲料水供給事業

8. ネパール 事業視察

期 間:2019年11月2日～11月4日
場 所:シンドゥパルチョーク郡メラムチ市ゴメソワリ小学校、カトマンズ
派遣者:長浜北ロータリークラブ(20名)、熱田典子
内 容:小学校校舎完成視察、小学校校舎及び飲料水供給事業譲渡式(長浜北ロータリークラブ 30 周年記念事業)

9. 第29回アジア国際ネットワークセミナー参加 インドネシア

期 間:2019年11月8日～12日
場 所:インドネシア、バリ島北クタ地区ディアナプラ大学
派遣者:村上公彦、柿嶋裕、有山京子、横山浩平
内 容:第29回アジア国際ネットワークセミナーコーディネート

10. カンボジア 支援事業視察

期 間:2019年11月25日
場 所:タケオ州トレアン郡ロネアム地区トマダ村
派遣者:横山浩平、花巻北ロータリークラブ7名
内 容:寄贈井戸視察、井戸建設候補地視察

11. ネパール 支援事業視察

期 間:2019年12月24日～2020年1月7日
場 所:シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区
派遣者:熱田典子
内 容:N 連事業確認及び農業トレーニング実施

12. タイ サイクル・エイト国際交流プログラム

期 間:2020年1月23日～1月26日
場 所:バンコク、ナン県
派遣者:村上公彦、岡本佳子
内 容:サイクル・エイト事業視察、国際交流等

13. ネパール 支援事業視察

期 間:2020年2月3日～2月12日
場 所:シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区、カトマンズ
派遣者:熱田典子
内 容:事業実施調整業務、ネパール事務所機能調整、安全講習受講(JICA 主催)、インドラワティ G.P 向け事業報告会実施
(平成30年度日本 NGO 連携無償資金協力支援事業)

14. カンボジア サイクル・エイト視察

期 間:2020年2月20日～2月25日
場 所:カンダル州、タケオ州、プノンペン
派遣者:田中心、三枝佑佳、中野まき、中本凌雅、福森愉衣、

岡本佳子

内 容：サイクル・エイド事業視察、国際交流等

15. タイ AFS/ICO 会議

期 間：2020年2月23日～2月26日

場 所：タイ

派遣者：村上公彦

内 容：AFFC ミーティング他

16. ネパール 支援事業視察

期 間：2020年3月1日～3月7日

場 所：カトマンズ、シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区

派遣者：藤原正昭、熱田典子

内 容：平成 31 年度日本 NGO 連携無償資金協力支援事業 在ネパール日本国大使との署名式、事業地視察、ネパール政府向け事業報告会実施



カンボジア、イオングループ労働組合連合会 井戸建設ワークキャンプ



インドネシア イオンリテールワーカーズユニオン アセアンセミナー
で現地の子どもたちとの植林活動



フィリピン日本映画祭「セカイイチャオイシイ水」に集まった現地提携団体



フィリピンのツアーの際に行った子どもたちへの歯磨き指導



ネパール 3 棟目の校舎完成に現地訪問の長浜北ロータリークラブさん



タケオ州のロネアム地区地区町から感謝状を贈呈された花巻北ロータリークラブ会長



インドネシア アチェでのマングローブ植林



フィリピン 植林のためのミーティング



カンボジア 井戸の建設ワークキャンプ(マルナカ労組、イオン九州労組、マックスバリュ中部労組)にて完成した井戸



ネパール 日本からの手作り生理ナプキンを手にして喜ぶ女学生



カンボジア サイクルエイド国際交流プログラム



ネパール 再生可能エネルギーである、バイオガスプラントの仕組みを学ぶ設置希望者

Ⅱ．国際交流事業

Ⅱ－A．人材交流・育成事業

1．奨学金支援

各自の専門職を通して将来アジア社会の発展や人々の福祉の向上に大きく寄与するとみなされる若手の人材育成資金(奨学金等)を支援。

●フィリピン

ASI マニラ 1名
2019年度は、フィリピンの大学院大学(本会の現地提携団体)であるアジア社会科学院(Asian Social Institute ASI)のユースボランティアで、地域開発専門を志望している生徒1名を同コースに派遣した。

1. Ms. Jeraldine O. Bigcas

●インド

HDSI アムラワティ 1名
HDSIの後継者として現在、HDSIにてボランティアとして活動を行っている Gaius Thorat 氏が専門的な知識を有し、HDSIに持続的に活動できるために、奨学金としてナグプール大学社会開発学科の学費を支援した。1年目の学科試験はすべて合格した。

2．海外ボランティア研修制度

アジア諸国との国際協力・理解と、市民レベルでの草の根ネットワークを広げていくことを目指し、海外経験を通して幅広い人材育成を行う制度として2000年より実施。2019年度は、40周年事業実施に注力するため応募を行わなかった。

3．人材育成事業

(1) アジア・ユースサミット

事業名 第6回アジア・ユースサミット
第6回テーマ「地域を良くするプロジェクトを創ろう ～多様性に富んだまちづくりをめざして～」

事業期間 2019年8月17日～22日
事業場所 大阪府立男女共同参画・青少年センター
奈良市青少年野外活動センター(合宿)
奈良県宇陀郡曽爾村(フィールド研修)

事業目的

1. 持続可能な地域社会の創造に一翼を担う日本を含めたアジアのリーダーの育成とリーダー間のネットワーク構築

参加者数: 総合計 128名(下記内訳)

海外: 合計 26名

インド(7)、インドネシア(2)、カンボジア(2)、スリランカ(2)、中国(2)、ネパール(2)、タイ(2)、パキスタン(2)、フィリピン(1)、ベトナム(2)

日本: 合計 36名

大阪府立佐野高等学校(教員1名、生徒2名)

大阪府立松原高等学校(教員1名、生徒7名)

大阪府立三島高等学校(教員1名、生徒10名)

大阪府立春日丘高等学校(教員1名、生徒2名)

神戸学院大学附属高等学校(教員1名、生徒7名)

株式会社デュアルエデュケーション

(学習塾)(教員1名、生徒2名)

実行委員、ボランティアなど: 合計 66名

事業内容

8月17日-18日 プレゼンテーションプログラム

8月19日-21日 グループディスカッション

宣言文策定

8月20日 曽爾村フィールド研修

8月22日 宣言文発表

カルチャーパフォーマンス

閉会式

その他: 適宜交流会を実施

2019年8月17日(土)～22日(木)の期間、日本を含むアジア11カ国の高校生を日本に一堂に集め、第6回アジア・ユースサミット(以下、第6回 AYS)を開催した。プログラムは、大きく分けて①プレゼンテーション、②グループディスカッション、③フィールド研修、④アクションステートメント策定、⑤カルチャーパフォーマンスの5つ。それ以外に懇親会やキャンプファイア、フェアウェルパーティなどにおいても交流を深める機会を持ちました。5泊6日という短くかけがえのない時間と空間を共有し、多様な文化と考え方を尊重しながら、参加者自らが調べ、選択した地域の課題と解決方法を共有し、地球規模の問題としてとらえ、解決に向けて行動することを参加者一同、宣言文(政策)という形で確認することができました。

加えて地域の持続可能性の課題に対して、若者が調査をとおりして自らの考えや意見を構築し、自らの言葉で発する力を養い、自信を深める機会を提供できました。

第6回 AYS 宣言文

私たちの町は、アジア11ヶ国の異なる文化を背景にもった人びとが集まる社会環境や自然環境も含め多様性に富んだ町で、5つの村で構成されています。同時に多様性であるが故の様々な課題を抱えています。これらの課題を解決するために私たちは、下記の通りに課題を絞り込み、総合政策を作りました。

課題

1. 環境(社会・自然)
 - ① 自然災害が増えていく上での個々で可能な防災対策
 - ② プラスチック製品の大量使用、廃棄、リサイクル
 - ③ 町の経済発展による空気や海などの環境汚染や木々の違法伐採
 - ④ 町の経済発展による伝統文化の喪失
 - ⑤ 様々な国からの移住者、高齢化していく住民が増えていく上での様々な障害
 - ⑥ 自然を守り、社会の問題、課題を解消するルール
2. 社会(社会的現象など)
 - ① テクノロジーの発展に伴う活字離れの加速化
 - ② 勉強したくてもイジメなどで学校にいけない若者人口の増加(今後さらに増えると予測される)
 - ③ 高齢者の孤立につながる若者との高齢者との人間関係の希薄化
 - ④ 日系ブラジル人なども含む移民の増加と社会への適応性
 - ⑤ 麻薬
 - ⑥ 根強く残る女性や民族間の差別
3. 人口
 - ① 人口増加・少子高齢化が互いに進む社会の理解
4. 経済
 - ① 商店街の空洞化
 - ② 失業者の増加
 - ③ 異なる背景をもった人びとが相互に理解しあい、交流できる場の減少。

政策

私たちは、上記の課題を解消し、多様性に富んだまちをつくるために「企画する・つくる・増やす・協力する・教える・理解する」を標語に下記に取り組みます。

- ① 高齢者、身体障がい者、外国人移住者の日常の困難を緩和するためのバリアフリーアプリをつくります。
- ② 様々な環境問題(プラスチックや一般ゴミ、森林伐採など)、社会問題(差別など)を啓発するためのポスターや展示物をつくり、ゴミ箱を増やし、啓発します。
- ③ プラスチック廃棄物をリサイクルし、商品化するための技術訓練・販売の指導を行い、シャッター街にて開業し、シャッター街の活性化と雇用を生みます。
- ④ 空洞化したシャッター街の一角を人の集まれる場とし、活字離れや世代間の格差などを埋めるための親子や若者と高齢者との交流の場をつくります。
- ⑤ 町から派遣された地域おこし協力隊を積極的に活用し、町の活性化に取り組みます。

以上を第6回アジア・ユースサミットにおける多様性に富んだまちづくりの政策とし、政策を実行するためにそれぞれのプロジェクトを実施することをここに宣言します。

評価・反省など

本事業は、持続可能な社会づくりにおける多様性を課題(テーマ)とし、課題解決に向けて自らが取り組めるものは何かをプロジェクト化させ、プログラム内にてプレゼンテーションという形で発表させました。グループディスカッションにおいては、各グループを仮想上の「村」とし、参加者を課題解決に取り組む「村

人」とさせ、課題解決に向けての政策作りを実施させました。最後に仮想上の町(AYS 町)の政策に組み込まれ宣言文として策定されました。

フィールド研修においては、村づくりにおける自治体の制度や地域おこし協力隊の取り組み、方法やその思いなどを学び、実践に生かせるようにした。

交流会においてははじめに言葉のバリアをなくすようための大人の経験のある引率者による少数民族のダンスによるアイスブレイキングなどがなされ、交流が深められるように取り組みました。参加した高校生たちも最初は、初対面、言葉の違いによる緊張感とプレゼンテーションによるプレッシャーもあり、交流を育むことやお互いアプローチすることができていなかったが、徐々にそれは解消され、別れを惜しむぐらいまで交流関係が深められたと思いました。

グループディスカッションにおいて、各グループを仮想村にすることにおいて、その村から選ばれた人＝「村長」が自らの政策とそれを伝える責任、それら明確にし、とりこぼしがないようにする責任を各グループメンバー(村人)にすることで、自らが必死で作ったプロジェクトが政策に取り込まれるように、議論をしていきました。そのことで、リーダーになるための責任感の気づきを与えられたのではないかと思います。一方で、課題のとらえかた「高齢化＝課題」「外国人移住者＝課題」「プラスチック廃棄＝課題」に対して、課題を掘り下げる時間や機会少なかったことが悔やまれました。なぜ高齢化に至ったのか、その背景、なぜ外国人移住者の増加したのか、なぜ、プラスチックが課題なのかなど、掘り下げ、自らの課題として深くとらえることにより、もう少し説得力のあるプレゼンテーションや議論が出来たのではないかと思います。今回、多様性に富んだまちづくりとして、地域をよくするプロジェクトの企画へと取り組みましたが、多様性であるが故に生まれた課題は少なかったと思いました。ただ、グループディスカッションの場を仮想空間にすることで多様性を生み出し、仮想ではあるが多様な課題と解決方法を自らのプロジェクトとつなぎあわせて、多様性に富んだ社会の課題とその社会の在り方を学ぶことができたのではないかと思います。

そしてここで考えたことは、本当に現在、アジア全般の中で起こっている多様性における社会的課題であり、様々な背景の高校生が共に議論し、学び、政策をつくることで、多様性の中でお互い支え合うことができる社会が実現出来ることを学んだのではないかと思います。今後もこれらの反省点を活かしながら、新しいアジア・ユースサミットをつくっていきたいと思います。

(令和元年度 外務省 NGO 事業補助金事業)
(2019 年度 三菱国際 UFJ 財団 国際交流助成事業)

(2) 日印友好学園コスモニケタン

2019 年度、人材交流・育成事業の一環として、長年支援をしているインド、カルナータカ州ビジャプーラ県の農村の学校「日印友好学園コスモニケタン」から先生 3 名と現地提携団体 BSVIA スタッフ 1 名を日本に招聘。学校設立からこれまでの歴史と現状、課題について大阪、京都、東京の支援者を対象に講演を実施。また、観光地だけでなく日本の公立の小学校や病院、福祉施設などを訪問し、日本の教育、社会福祉の現場の人たちとの交流を通じた学びの機会を得た。

来日者

1. Mr. Basavaraj S. Awati, Principal and English Teacher

2. Mr. Irappa C. Pattanashetti, Kannada Medium Teacher
3. Mr. Shivashenkar N. Yankanchi, Social Studies Teacher
4. Ms. Nandini H. Kumbhar, President of BSVIA

カンナダ語通訳

Mr. Sachidanand H. Kumbhar, Secretary of BSVIA

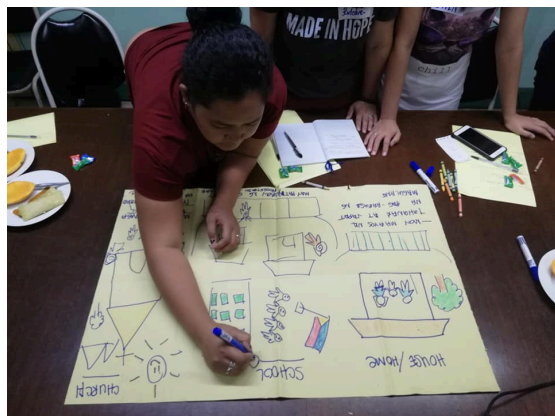
プログラム内容

- 6月16日 来日
- 6月17日 舞洲ゴミ工場見学、懇親会
- 6月18日 講演会(官報ビル 8F)、夕食交流会
- 6月19日 京都美山町見学、打合せ
- 6月20日 茨木市沢池小学校視察、病院視察
支援者との交流会
- 6月21日 障がい者福祉施設「ねやの里」視察
- 6月22日 京都観光、JAFS 京都地区にて講演会
洛南教会にて
- 6月23日 広島原爆ドーム視察
- 6月24日 JAFS 関東地区会にて講演会・交流会
キャビネットビルにて
- 6月25日 帰国

コスモニケタン設立時から同校に携わっている先生方から現状を聞く機会を持つことができ、現代のインドにおける同校の必要性和さらなる向上の必要性を知ることができ、40周年記念事業の一環としてよい機会を設けることができた。



コスモニケタン学園の先生と支援者との交流



ASI の地域開発専門コースの授業の様子



第6回 AYS 参加者一同



AYS 高校生参加者のプレゼンテーション(カンボジア)



第6回 AYS グループディスカッション発表の様子



AYS 閉会式でのカルチャーパフォーマンス(インドネシア・アチェ)

Ⅱ-B. ネットワーク推進事業

1. 国際会議

(1) アジア国際ネットワークセミナー

事業名: 第29回アジア国際ネットワークセミナー
基本テーマ: 貧困なき一つたるアジア共同体を目指して
～アジアに理解と協力と連帯の輪をひろげよう～
第29回テーマ: 教育の役割～貧困からの脱出とコミュニティ
リーダーの育成
開催地: インドネシア バリ島 バドゥン県北クタ地区
ディアナブラ大学
期 間: 2019年10月8日(火)～12日(土)
参加国: インド(17)インドネシア(16)カンボジア(2)スリランカ(5)
タイ(16)ネパール(4)、バングラデシュ(1)、フィリピン(9)
マレーシア(2)、シンガポール(1)日本(18)

参加者数: 91名

概要: 現在、急速な経済開発が広がるアジアの国々において、単なる知識教育ではない、持続可能な社会を作り上げるための人道的教育が必要とされている。今回は、「教育」をテーマに取り上げ、貧困や開発から人びとを覚醒させる教育、地域において持続可能な地域づくりに向けて取り組むリーダーを育成するための「教育」とは何かを基調講演や様々な活動報告、各国活動のシェアリングを通して取り上げた。このセミナーは、本会の40周年記念事業の一環であり、アジアの貧困の撲滅から持続可能な社会づくりにむけて本会およびAFS 発足当初から活動を共にしてきたパイオニアたちとともにこれまでの活動の軌跡を追う機会を設けた。その他、フィールド研修において、持続可能な地域づくりに向けて、地域開発や環境保全などに取り組んでいる場所や環境危機に迫りやられている場所などを訪問し今後の検証材料として取り上げた。

開会挨拶 Sidhi Turker 博士 ディアナブラ大学
AFS-Bali チャプター
Gina Yap 博士 AFS/ICO 局長
IGB RAI Utama 博士 ディアナブラ大学 学長
村上公彦(JAFS 専務理事兼事務局長)
西田貞之(JAFS 理事、国際交流事業委員会委員長)
櫻井紘哉(JAFS 理事・総務財務委員会委員長)
閉会挨拶 小原 純子(JAFS 副会長・第29回アジア国際ネット
ワークセミナー大会委員長)

基調講演:

講演者: ワルサ・タブレ博士 インド マハラシュトラ州ナガルジュン
薬用・アロマ植物園 園長

内 容: 「伝統的ハーブ草による医療」
インドで伝統的に伝わる薬草による医療の効果について理解を広め、地域開発にも生かす方策を学んだ。

講演者: マデ・ニャンデラ博士 ディアナブラ大学 元学長

内 容: 「伝統医療のコンセプト」
インドネシアは世界最大のハーブ草の種類と量を抱えており、政策によりハーブ草の正しい育て方や医療への適用が決められている。保健局へ必ず届を出し、サ

ービスを供給することが求められている。

講演者: ニューマン・ダルマ・ブトラ博士

ディアナブラ大学 社会学部

内 容: 「グローバル社会における地域リーダーの育成」

バリにおける通常の観光業は、環境汚染や渋滞、違法薬物使用の問題などを起こし、地域にプラスの効果をもたらさなかった。そこで地域のリーダーたちが、地域住民の参加を得て、持続可能な地域づくりが行えるような観光業を発展させることに成功した。

講演者: イダ・アユ・ラクスマ・サリ博士(ウダヤナ大学)

内 容: 「バリの先住民族アガ族と日本のアイヌ民族の伝承に関する比較研究」

バリのアガ族は、ヒンドゥー王国がインドネシア全土を支配する以前から、バリ島に暮らし口承でバリ語を伝承してきた。日本のアイヌ民族の文化や生活習慣と似ているとともに山間地の川べりに居住し口承で文化を伝えてきた。現在、両民族とも観光対象として魅了されている。

講演者: エドワード・オン(AFS シンガポール代表)

内 容: 「教育の役割～貧困からの脱却とコミュニティリーダーの育成」

「教育は未来へのパスポートである」というアメリカの1960年代の黒人市民運動家マルコムXの言葉を引用し、教育の進歩と貧困緩和との関係性を過去のドイツやシンガポールの事例から説明した。

JAFS / AFS40 周年記念 Asian Friendship Society (AFS) の軌跡

村上 公彦、小原 純子、エカ・サントサ(インドネシア、ホサナ財団 代表)、コーソン・スリサン(タイ、バイタル 代表)

JAFS/AFS の40周年を記念し、これまで長年AFSにて貧困撲滅に向けて共に活動してきたAFSのパイオニアたち(上記4名)が、活動のきっかけや思い出などを語った後、今回参加した若き後継者たちが学ぶ機会をつくった。

まず小原副会長から40周年記念委員会委員長として、JAFSとしての長年の功績を話していただき、開会とした。

その後、創始者である村上専務理事からは、JAFS/AFS は、従来から貧困撲滅をするためのネットワーク活動をメインとし、そのためのツールとして井戸や学校をつくり、友の輪を広げてきたことが説明された。

またコーソン氏は、ネットワーク会議での村上専務理事との出会いと、その後の農村開発活動へと繋がりを語った。エカ氏からは、「牧師は、教会活動はするが社会活動はしない。しかし社会活動をする牧師としてAFSに参加してほしい」と言われて活動に参加したことが語られた。マレーシアのフランチェスカ、カンボジアのロン・チョーンなどからも活動のきっかけを話していただき、長年の軌跡をたどることができた。

教育をテーマにした活動報告

報告者: ロン・チョーン KAFS 代表

内 容: 「KAFSの教育支援にフォーカスした活動報告」

教育支援を通して実施してきた支援事業の実績と支援を通して成長してきた若者の過去と現状について報告。

報告者：レシュナ・バジャラチャラ (AFS ネパールスタッフ)
スレニー・ラジバンダリー (AFS ネパール メンバー)
内 容：「震災から地域の人たちを立ち上げさせる教育の役割とは」

2015 年の地震の被災を機に AFS ネパールでは、復興と地域再生を目指して、様々な取り組みを行ってきた。中でも地域の女性グループなどの立ち上げを通して、復興への道を地域の人びとと共に覚醒させてきた。そこに至る様々な過程と現在の取り組みを報告

報告者：マヌリ・パバサリ・マニケ・ワレボダ
サルボダヤ・シャンティセナ職員

内 容：「サルボダヤ運動における地域の人びとへの教育について」

サルボダヤの創始者、アリヤラネ博士により実践されたサルボダヤ(覚醒)の運動。貧困にあえぐ人びとを地域の人びととの互助活動を通して貧困から人びとを覚醒してきた実績を報告した。

報告者：カシナート・デオガデ RUDYA 事務局長

内 容：「農村の少数民族への医療教育における課題について」

RUDYA の事務局長としてインドの少数民族地域の開発を行ってきた。特に医療面において、インドには西洋医療、伝統医療 (ハーブ草など)、祈祷師による医療としての祈祷行為があり、後者は人を死に招くなど課題を残してきた。一方で少数民族の人たちの祈祷師への崇拝と信仰は西洋医学よりも深く信じられてきた。そこで最も伝統的に残る村に診療所を開設し、医療を広める活動を実施してきたその過程を報告した。

報告者：ジミー・ボンソー AFS-TOMOHON 代表

内 容：「環境保全を通じた北スラベシ州の孤島人材流失の抑制をめざして」

13,466 もの島を抱えるインドネシア。美しい珊瑚礁とマングローブ林に囲まれたタリセ島もその一つであり、かつては黒檀林業で栄えた場所であったが、大量伐採により黒檀が枯渇し、漁業、農業の経済効果も低く、近辺の港町までのアクセスも悪いために、親族をたより、州都マナドに行く人たちが後を絶えず、コミュニティが崩壊の危機を迎えた。美しい珊瑚礁や自然、海でとれた新鮮な食べ物や景観を武器に、ダイビング客やエコツアー客を魅了して、島の再生に取り組んでいる活動を報告した。

その他、バングラデシュのジャーナリストであるゴータム氏が製作したスラム街における人びとの暮らしをドキュメント化したビデオや、タイのシリニーからサイクルエイドの報告とともに、タイからの記念品の贈呈が行われた。

フィールド研修

- ① キンタマニー地区カントゥール村 ハーブ農園
- ② デンパザール地区南部 漁師とマングローブ林の共存
- ③ ギャンヤールビーチ南部 地球温暖化と沿岸浸食
- ④ MBM 研修センター 農業を通じた地域開発のモデルケース

参加者各自が上記候補地を選択し、それぞれの地域にて地域の人びとや NPO 団体などがどのような活動を行っているのか学びに行った。

カントゥール村では、ディアナブラ大学が取り組んでいる地

域の雇用を生むためのハーブ農園を通じた地域開発のモデルケースを視察。

デンパザール南部では、マングローブ林地区の視察。観光のために伐採されていったマングローブ林の再生と漁師たちがどのように共存しながら地域開発を行っているかを学んだ。

ギャンヤールビーチ南部では、沿岸浸食によりホテルの地盤が緩み、傾いたホテルを視察し、地球温暖化における海面上昇と沿岸浸食がどのようにして人の生存権を奪っていくかを学ぶことができた。

最後に MBM 研修センターにて有機農業やバイオガスプラント設置などの実践を視察した。

AFS ネットワーク会議

AFS ネットワークは、一つの組織ではなく、本会の各提携団体が「貧困なき一つなるアジア共同体をめざして」のもとに集まり、それぞれの活動を共有しあいながらお互いの能力を高めていく場である。この会議では、ネットワーク資金を集めるための活動についての様々なハードルや解決方法、その他、考慮すべきことやルールづくりなどが話し合われた。これまで先進国が資金を出し途上国が資金の受け手となっていたが、現在は、海外からの積極的な資金供与が大きく、本来目標としていたお互い同じ立場に立ちながら資金を供与し合うところの目標に毎年一步ずつ近づいており、それを評価するとの声が多く聞かれるようになった。

第 29 回アジア国際ネットワークセミナー宣言文

社会から虐げられている人たちに、私たちは様々な知識や技術を提供することをここに誓う。

基礎教育を提供し、人びとの視野を広げることをここに誓う。

AFS メンバー間の連帯を強め、地域のリーダー育成における教育的課題に対して取り組むことをここに誓う。

人間的価値と思いやり持つ人間を育てることをここに誓う。

活動 40 年をたどってきた AFS 運動をたたえ、社会に貢献するために自らが自己啓発に取り組むことをここに誓う。

これらの誓いをもって、第 29 回アジア国際ネットワークセミナーを締めくくり、これからは貧困なき一つなるアジア社会の創造をめざすことが共有された。



第 29 回アジアネットワークセミナー参加者集合写真

(2) 国際ネットワーク機能強化事業

設立基本目標の一つである国際連帯を図るネットワーク事業。当事業推進ために AFS/ICO(国際調整事務局)を設けている。AFS/ICO はJAFS 事務局長を中心に、各国の部会(提携団体)から選出した8名の委員で構成して活動している。

◇AFS/ICO 活動;

第一回会議:6月15～20日バンコクにおいて、2019年度AFS/ICO(国際調整事務局)会議を開催した。特に、国際支援会議の財政強化を図るための基金創り(財団設立)について議論が交わされた。

第2回会議:10月12日(第29回アジア国際ネットワークセミナー開催期間中)にインドネシア・バリで開催。財団設立に向けて突っ込んだ議論がなされた。

第3回会議:第2回会議の答申を受けて、11月17日～21日バンコクにおいて財団設立準備委員会を開催した。2020年2月24日にアジアのビジネス関係者を招いてアジアフレンドシップ財団(AFFC)設立発起人会を開催することにした。

設立発起人会により多くの参加者を得るためにゴルフ大会を合わせて行うことが企画された。結果として、コロナウイルスの世界的蔓延によりAFFC設立発起人会は中止となったが、個人的な形で任意の有志によるゴルフ大会(4か国62名参加)は実施された。AFFC設立発起人会は無期延期となった。

(3) アジア・フレンドシップ夢基金

当基金はAFS/ICO(国際ネットワーク事務局)の事業の一環として本会のアジアにおけるネットワークの求心力を高めるために2008年に設立された国際基金。現在アジア8か国の各部会が任意に参加している。

本会において国際基金は2010年から「夢基金」という名目で世話人会が発足。募金のための世話人会(代表 坂口久代理事)を設けて国際基金募金に協力している。2019年7月28日(日)アジア・フレンドシップ夢基金はアジア協会アジア友の会40周年を記念してクラウドスーディーター・プラント氏を招いてチャリティー・チェロコンサートをモーツァルト・サロン会場を満席で開催。

2019年4月9日、7月3日、10月19日に世話人会例会を持った。(2019年度 募金高は388,100円)。

なお、国際基金管理委員会(委員長 T・ブラモド、8か国12人の委員)は毎年一回会合をアジア国際ネットワークセミナー(AINS)に合わせて開いている。

2. 国際体験交流(スタディツアー等)

アジアにおける本会海外プロジェクト視察や、アジアの現状に対して足を運び実感するスタディツアー等を通じて、国際理解文化交流の場を広く人々に提供し、本会の活動事業への理解と協力と連帯の輪を内外に広げることが目的とする。2019年度は、2か国31名がスタディツアーに参加。

兵庫県立国際高等学校 カンボジア・スタディツアー(カンボジア)

期 間:2019年10月22日～26日

場 所:カンボジア、タケオ州、シェムリアップ州、プノンペン市内

参加者:23名(生徒20名、先生2名、スタッフ1名)

内 容:労働移住に関する調査と理解、国際交流

フィリピン・Clean & Green Ecological School 訪問ツアー(フィリピン)

期 間:2020年2月7日～2月11日

場 所:アンティケ州パンダン町、シバロン町、マニラ市等

参加者:9名

内 容:環境教育に関する意見交換、プロジェクト視察、障がい者支援、国際交流



兵庫県立国際高校の生徒とカンボジアの子どもたちとの交流



ネットワークセミナーでのJAFS40周年お祝いの会



ネットワークセミナーでのフィールド研修

海外提携団体 A F S ネットワーク

(18 ヶ国 70 団体 日本除く)

提携団体 (略称)	管理責任者	所在地	活動
1 インド			
1 BSVIA	N. クンバール	カルナータカ州ビジャヤプーラ	水、子ども、貧困対策、環境、災害復興
2 EDCI	S.サンディシュ	マハラシュトラ州ナグプール	子ども、貧困対策、環境
3 ISSA	J.ザカライヤ	マハラシュトラ州プーネ	水、子ども、貧困対策
4 AFS Kolkata	A. バナジー	西ベンガル州コルカタ	水
5 SSH	B.セルヴァラージ	タミルナードゥ州ディンディガル	水、子ども、災害復興
6 RUDYA	K. デオガデ	マハラシュトラ州ガッチロリ	水、子ども、貧困対策、環境、災害復興
7 HDSI	P. ソラット	マハラシュトラ州アムラワティ	水、環境
8 JVK	アショク・トッポ	オリッサ州ブバネシュワール	災害復興
9 AMS	A.P.ポール	タミルナードゥ州マバルワペタイ	水、貧困対策
10 Don Bosco Ashalayam	Fr. ジョージ	デリー	子ども
11 Runa	ピーター・ペロ	ナガランド州コヒマ	水
12 AFS-Nagpur	P. ビシャール	マハラシュトラ州ナグプール	子ども、貧困対策
13 AFS-Akola	D. ダンラジ	マハラシュトラ州アコラ	環境
14 AFS-Rural Gacchioli	D. パルサガデ	マハラシュトラ州ガッチロリ	貧困対策
15 AFS-Gadchiroli	P. ソンタッケ	マハラシュトラ州ガッチロリ	貧困対策
16 AFS-Saoli	B. アレワール	マハラシュトラ州チャンドラプール	貧困対策
17 AFS-Aramori	M. ヘポット	マハラシュトラ州ガッチロリ	貧困対策
18 AFS-Chhattisgarh	S.H.パッタン	マハラシュトラ州チャティスガー	貧困対策
19 AFS-Sanguli	クムディニ・ナシュテ	マハラシュトラ州ソラプール	子ども、貧困対策
20 AFS-Latur	ラジ・マホール	マハラシュトラ州ラトール	子ども、貧困対策
21 AFS-Bangalore	カムレ	カルナータカ州バンガロール	子ども、貧困対策
22 IJSDC	ウノ・イクバル	カルナータカ州バンガロール	貧困対策
23 AFS-Lonara	タラチャン・カブセ	マハラシュトラ州ロナラ	水、貧困対策
2 インドネシア			
24 HOSANNA	E.サントサ	バリ島ケロボカン	水、子ども、貧困対策、環境、災害復興
25 AFS-Aceh	サラ・ジュマリア	アチェ州	環境、災害復興
26 AFS-Jakarta	B. ラバン	ジャカルタ	水、貧困対策、環境
27 Dhyana Pura 大学	マデ・ニヤンドラ	バリ島クタ	国際交流
3 韓国			
28 公州大学校産業科学大学	ユン・ジュン・サン	忠清南道礼山	国際交流
4 カンボジア			
29 KAFS	ロン・チョーン	プノンペン	水、子ども、貧困対策
5 シンガポール			
30 AFS- Singapore	エドワード・オング	シンガポール	国際交流
6 スリランカ			
31 SARVODAYA	A.T.アリヤラトネ	モラトゥワ	水、環境、貧困対策

7	タイ			
32	VITAL	K.スリサン	コンケン県マハサラカム	貧困対策
33	TAFS	ニラン・チャンタ	バンコック	子ども、国際交流
34	FON	サック・ノスリ	ナン県	子ども、貧困対策
35	ELF	チャイチェン	チェンマイ	国際交流
36	AFS-Chang Mai	チャイワット	チェンマイ	国際交流
37	AFS-Lampang	スラボン・パクディ	ランパン	環境
38	AFS-Udontani	サン・セン	ウドンタニ	国際交流
8	中国			
39	CHAFS	羅 紅光	北京	子ども、環境
40	AFS Hong Kong	調整中	香港	国際交流
41	AFS Uighur	ユスフ・エム・デオラ	ウルムチ	貧困対策、国際交流
9	ネパール			
42	HARD	S.マナダール	カトマンズ	水、子ども、貧困対策、環境
43	AFS-Nepal(GreenScout Nepal)	ラジャン・M・マッラ	カトマンズ	水、子ども、貧困対策、環境
10	パキスタン			
44	PAFS	C.H.ナディーム	イスラマバード	水、子ども、災害復興
11	バングラデシュ			
45	AFS-Bangladesh	S. チョウドリー	チャンドラゴーナ	水、貧困対策
46	AFS-Dhaka	M.フェローズ	ダッカ	水、子ども、貧困対策、環境
47	AFS-Chittagong	I.チョウドリー	チッタゴン	国際交流
48	BDP	アルバート・マラカル	ミルプール	水、子ども、貧困対策、災害復興
49	AFS-BIWM	ムンスール・ラーマン	ダッカ	水、子ども、災害復興
12	フィリピン			
50	KALIPI	エロイサ・クナナン	ヌエバエシハ州サンレオナルド	水、貧困対策、環境、災害復興
51	AFS-Pandan	ネリ・サラビア・レクタ	アンティーク州パンダン	水、子ども、環境、貧困対策
52	AFS-Virac,Catanduanes	ランド・グロバット	カタンドゥアネス州ビラク	水、環境、災害復興
53	AFS-Manila	マラガ・アマンテ	マニラ市	国際交流
54	AFS-Zamboanga	エメリタ・バシリオ	南サンボアンガ州サンボアンガ	国際交流
55	Asian Social Institute	ミナ・ラミレズ	マニラ市	子ども、貧困対策、環境、災害復興
56	AFS-Davao Oriental	レイナルド・ギタカイ	東ダバオ州ダバオ・オリエンタル	国際交流
57	AFS-Ibajay	エミリー・アランゴテ	ア克蘭州イバハイ	子ども
58	AFS-South Antique	ビクター・デ・グラシア	アンティーク州サンホセ	子ども
59	AFS-UMD	ジーナ・ヤップ	ソルソゴン州マトノグ	子ども、環境、貧困対策
60	AFS-Antique	ジェネロサ・コンデス	アンティーク州	貧困対策、環境
61	AFS-Guimaras	ヴィック・デ・グラシア	ギマラス州	環境
62	AFS-Kabankalan	エライザ・ベルナオーラ	西ネグロス州	環境
63	AFS-Tacloban	ロウェナ・ロセ	レイテ島タクロバン	貧困対策、災害復興
13	ベトナム			
64	VAFS	ルー・バン・ロック	ホーチミン	貧困対策、子ども
65	Cantho 大学	ドン・バン・ニー	カントー	貧困対策
14	マレーシア			
66	AFS-Malaysia	リム・チャイ・ホン	ペナン	環境、災害復興

15	ミャンマー			
67	MAFS	ヤム・コーパウ	ヤンゴン	水
16	モンゴル			
68	MoAFS	エンフトヤ	ウランバートル	貧困対策
17	ラオス			
69	LPRYU	ワンペン・クンポーライ	ビエンチャン	水、子ども
18	アフガニスタン			
70	AAFS	ラハマツト	ジャララバード	貧困対策



第 29 回アジア国際ネットワークセミナーに参加した各国の AFS チャプターの人たち



井戸が完成し喜んで水を飲む学生たち(バングラデシュ)



完成し水を得安心した暮らしを得た村人(ネパール)



インドの女性自立支援のために実施した山羊の銀行(サングリ県)



ミャンマーの人々を潤す井戸の完成



フィリピン エコロジカルスクール



環境セミナーで環境保全の為アイデアをプレゼン(ネパール)



2019 年度作成した、「命の水を届けよう募金箱」

Ⅲ. 災害・紛争の罹災者に対する生活支援事業

Ⅲ－A. 災害等罹災者支援事業

1. 災害等罹災者支援事業

(1) ネパール中部地震 災害復興支援

AFS-Nepal ネパール中部地震 被災地復興支援

【シンドウパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区(旧ボテシバ村)／メラムチ N.P. 他

2015 年 4 月 25 日に発生した地震の被災地、被災者に対して、復興及びその後の持続可能な地域づくりを目指した支援活動を以下の通り実施した。

●学校支援

◇校舎の再建

被災により倒壊した校舎を長期的に使用できる再建を1棟行った。

僻地で支援から取り残されている学校からの支援要請が多く寄せられたがその中でも交通の便が悪く、支援団体が全くない下記の学校に3年間で3棟の実施を行うことにした。本年度3棟目が完成し、現地でドナーの長浜北ロータリークラブ主催の譲渡式が執り行われた。

実施校:スリー ゴルメスウォリ ベイシック スクール

所在地:シンドウパルチョーク郡メラムチ N.P. ジャミレ地区

●大規模揚水システムの設置及び農業基盤づくり事業

インドラワティ G.P.10 地区(旧ボテシバ村)の水の状況は大変ひどくなる一方で、乾季の水量が最少の時期は緊迫した状況になっている。その状況の根本的な解決に向けて、山の裾を流れる河川から水をポンプアップし、一定量の水を確保するシステムの設置及びその水を活用して農業の基盤づくりより、復興から持続可能な地域づくりをめざした事業

1.灌漑農業用水と安全な水確保のための揚水システムの設置

1-1 揚水ポンプ及びポンプ室(+変圧器)の設置

1-2 貯水槽(タンク)の設置

A 地点の取水口から D 地点の 4 ヶ所に下記揚水システムの設置を行った。

・A 地点:揚水ポンプ、ポンプ室、変圧器及び貯水槽 2 万リットル 2 基の建設済み。また、取水口となる井戸の設置も完了。

・B 地点:揚水ポンプ、ポンプ室、変圧器及び貯水槽 3 万リットル 1 基の建設が完了。

・C 地点:揚水ポンプ、ポンプ室、変圧器及び貯水槽 3 万リットル 1 基の建設が完了。

・D 地点:揚水ポンプ、ポンプ室、変圧器及び貯水槽 3 万リットル 1 基の建設が完了。

1-3 上部水槽の設置

D 地点より約 100m 上位に 7 万 5 千リットル貯水槽 1 基の設置が完了。

1-4 パイプ接続(アンカーブロック、溶接)

A～B～C～D～上部水槽へつなぐパイプの接続(総計 4,557m)、

アンカーブロック設置、溶接作業が完了。

2.水管理組合の設置

対象地の住民から〇名選出され、水管理組合が形成された。組合は後継事業においても

2-1 水インフラ管理技術研修

・第 1 回研修(4 月)

水管理組合設立のための候補者に対してリーダーシップ研修を行う。

・第 2 回研修(11 月) オリエンテーション

・第 3 回研修(1 月)／第 4 回研修(2 月)／第 5 回研修(3 月)

3.農業生産向上のための基盤づくり

3-1 農業生産向上のための組織作り「農業組合」と管理技術研修

・第 1 回研修(4 月～5 月)

農業の可能性と農業組合設立のためのリーダーシップ研修を行い、各集落のリーダーの選出を行い、農業組合のメンバー 21 名が決定されオリエンテーションを行った。

・第 2 回研修(7～8 月)

農業の基礎部分の研修、主に土壌について、有機たい肥作りの実践研修を行った。また、農地の現状把握の視察も行い、農地の問題点や改善点等の提案を行った。さらにリーダーシップ研修も行い、農業組合のメンバーに対してリーダーの役割やリーダーとしての考え方等の話を行った。

・第 3 回研修(11 月)

野菜の苗床管理や栽培方法、病害虫についての内容を農業組合のメンバーを対象に行った。

・第 4 回研修(2 月)

たい肥・土壌づくりの復習、苗床栽培指導・害虫駆除の実践を行った。

・第 5 回研修(3 月)

これまでの1年間の総復習や次年度に向けての取り組み、組合の方向性についてワークショップ形式で行った。

3-2 最適作物の選定

当会の村事務所の実験農地にて黒豆、赤しそ、インゲン、キュウリ、ゴーヤ、トマト、マンゴー、キウイ、ブドウ、なしのテスト栽培を行った。また、レモン、カリフラワー、キャベツ、キュウリ、ウリの苗づくりを行い、これらの苗は農業組合のメンバーに配付し、メンバーの集落での栽培状況の確認を行った。

3-3. 3-4 土壌改良・肥料作り研修

・各集落にてたい肥作りの進捗状況の確認を行う。(10 月、12 月)

農業組合のメンバーの各家庭で作られているたい肥について指導や各集落での共有、土壌の pH 確認等を現地行政の農業担当者と共に行った。

・上記農業組合のメンバーが集まり有機たい肥作りの復習(1 月)

たい肥作りに関する問題点などを共有。また、各集落での情報共有できるよう再度指導を行った。

※本事業は、日本 NGO 連携無償資金協力の資金により実施。

2019 年 3 月 20 日より事業を開始。事業全体としては 3 年計画。

3 月 19 日まで平成 30 年度日本 NGO 連携無償資金協力(単年度

支援)として1年目の事業実施。
3月25日より、平成31(令和元)年度日本NGO連携無償資金協力の支援事業として2年目の事業を開始した。

(2) 東日本大震災 災害復興支援

JAFS 東日本大震災災害復興支援

【宮城県石巻市、名取市、女川市、南三陸町】

南三陸・女川を訪れる復興支援スタディツアー

震災から8年が過ぎ復興に力を注いでいるの宮城県において、震災の風化防止現地活動を応援している。その活動にパナソニックグループ労働組合連合会の組合員41名の参加によるツアーを開催し、被災地を訪れた。復興に向けて南三陸町の「海に見える命の森」にて、植樹、大川小学校での献花、気仙沼震災遺構伝承館訪問をはじめ、本会が設置に支援した「みなさん館」で現地の食材を使った昼食を摂り、現地の現在の状況を理解することが出来た。今後、2021年まで継続して実施していく予定。

(3) フィリピン 台風ファンフォン被災者支援

AFS-Pandan フィリピン・台風災害緊急支援

【フィリピン・パナイ島】

2019年12月24日から25日のクリスマスに台風ファンフォンがフィリピンを襲い、約240万人の人々が被災。甚大な被害を受けたパナイ島パンダン町、ルソン島ソルソゴン州の子どもたちが早く学校で教育を被災以前の様に受けることが出来るよう、教材・文房具配布や校舎の破損部分の修理等のために募金を開始した。



南三陸での植林作業地にて、パナソニックパナソニックグループ労働組合連合会のみなさん



南三陸でのもみじの木の植林活動



揚水システム設置のためにパイプを設置するエンジニアや現地作業員(ネパール)



エンジニアや現地作業員が安全に作業できるように服と靴の寄贈(株式会社モンベル協力)(ネパール)



大規模パイプライン 送水用タンクの設置工事の様子(ネパール)

IV. 普及啓発事業

IV-A. 地域広報活動事業

1. 本部活動

(1) JAFSチャリティープログラム

2019年度は、JAFSチャリティーバザールを例年の春秋の2回開催を改め、秋のみ住道駅前北側のデッキ広場で開催した。大東市の市報を通じて、参加者を募り、バザールだけでなく、本会の活動を知る機会を作った。バザールではミュージシャンやダンサーがパフォーマンスを披露した。

この他、昨年同様に本会の支援者、9カ国40名の在関西外国人、一般参加者との交流を通じたチャリティーパーティ「第4回アジア・チャリティーフェスティバル」を開催し、チャリティー募金活動を実施することが出来た。

＜JAFSチャリティーバザール＞

日 時: 2019年9月1日(土) 10:00～16:00
出展数: 19展 (19ブース)
ボランティア参加数: 6グループ

＜第4回アジア・チャリティー・フェスティバル＞

日 時: 2019年12月15日(日) 11:00～19:00
共 催: 公益財団法人大阪国際交流センター
場 所: 公益財団法人大阪国際交流センター
参加者数: 366人
実行委員会 全10回 開催

(2) 国際理解教育講座

NGOが学校や団体の研修の場に入り、相互理解・協力をはかりながら人材を育てていくことを目的に実施している事業。2019年度もNGO活動を通じた学校や団体の国際協力参加について様々な講義・研修を行った。

NGO講師派遣 【のべ9ヵ所、443名】

- 6月5日 西宮市立甲陵中学校 PTA 国際人権教育推進部 (30名) 「甲陵の井戸を知る会」
- 6月14日 神戸女学院大学 ボランティア論招聘講師 (70名) 「アジアへ水を贈る活動から見える自立支援」
- 6月19日 大精教看護専門学校 文化人類学特別講義 (38名) 「JAFSの活動と国際協力」
- 6月20日 大精教看護専門学校 文化人類学特別講義 (38名) 「ウイグル編」
- 6月21日 大精教看護専門学校 特別講義 (38名) 「ネパール日本の関係、そしてアジアの医療・保健事情とその支援活動」
- 7月8日 高齢者大学 国際文化交流 講義 (40名) 「アジアの中の日本 ～NGO活動の意義」

- 7月18日 大阪府立藤井寺高等学校 (29名) 「安全な水とトイレを世界中に SDGs 目標 6」
- 8月31日 寝屋川市民講座 ふらっとねやがわ 「SDGsと人権」 (30名)
- 10月9日 龍谷大学 国際ボランティア論特別講師 (40名) 「水の問題と保健衛生～ネパールの事例から～」
- 2月14日 HAPIC(JANIC 主催) セッションのスピーカー 「変化する国際協力業界」 登壇者 (60) 「市民社会スペース:CSOとODAのパートナーシップを考える」 (30)
- 3月30日 KANSAI-SDGs市民アジェダ中間報告 「KANSAI-SDGsと私たち」 (執筆にて)

授業受け入れ

【1校 15名】

- 12月11日 大手前高等学校 国際理解授業(集中セミナー) (14名+教員1名) 「NGOの現状と活動/私たちの暮らしと国際支援との相互性」

(3) 国際ボランティア啓発活動

6月8日(土)の総会時にあわせて海外プロジェクト報告会の実施。その他、各地区にて支援事業の報告会などを随時実施。又月1回のぞうすいの会にて報告を実施した。

(4) アジア文化理解講座

一般の人が国際協力を身近に感じられる催しを通じて、国際交流・支援活動への参加につなげることを目的としている。

2019年度は国別プログラムの一環としてスリランカ講座を開催し、アジア4ヶ国のアジア家庭料理教室を行い、のべ35名の参加を得た。

(5) 研修生・実習生受入プログラム

大学生インターンシップ及び実習受入

◆大学生インターンシップ受け入れ

①大阪商業大学 (1名)
期間: 10月11日～2020年1月17日の間 19日間
インターンシップ生: 井家上 真馬
実施内容: 海外プロジェクト後方支援活動やボランティア活動を通してNGOへの理解を深めると同時に社会体験実習とする。

②近畿大学 国際学部体験プログラム (5名)
期間: 8月～2020/3月末
実習生: 田中心、三枝佑佳、中野まき、中本凌雅、福森愉衣

内容: サイクル・エイド事業をととした NGO 活動への理解を深め国内及び海外にて体験実習を行った。

◆JAFS インターンシップ制度

JAFS の人材育成事業としてのインターンシッププログラムに以下2名が参加し、NGO 活動を学ぶと同時に、JAFS の活動への理解を深める機会とした。

岡田 遥(社会人) 9月24日～12月16日

原 大我(大阪経済大学 大学生)10月5日～実施中

(6) 法人関連プログラム

本年は JAFS 創立 40 周年を記念し、法人賛助会と社員クラブ合同で記念講演会を行った。

エリ・コーヘン氏(元駐日イスラエル大使・元アリエル大学学長)
特別講演会&交流会

1. 講演会

テーマ 「これでいいのか日本の精神文化」

ユダヤに学ぶ日本の品格-

日時 2019 年 5 月 25 日(土) 15:00-16:30

会場 大阪国際センター 小ホール

参加者 88 名

2. 交流会

日時 2019 年 5 月 25 日(土) 17:30-19:30

会場 ホテルアウイーナ大阪 1 階 レストランカステロ

参加者 65 名

(7) JAFS 社員クラブ

ゲストによる様々なテーマの卓話をはじめ、社員相互の交流と親睦の場、そして未会員が気軽に参加できる格好の機会として開催しているが、2019 年度は、毛利監事が主宰される異業種交流会コスモスクラブとの合同例会を開催した。

コスモスクラブ & JAFS Party 年末交流会

日時 2019 年 12 月 2 日(月) 18:00～20:30

会場 ニューオーサカ心斎橋

参加者 65 名(内 JAFS 会員 12 名)

講話: 西元 有紀氏

「ほめ声で広がる幸せの輪」

(8) JAFS アジア市民大学

JAFS 創立 40 周年記念行事の一環として、政治経済はもとより自然・社会・文化などについて多角的に、一味違うアジアを探究する場として、2019 年 1 月に開学し、今年度は 4 月～2020 年 1 月に開催した。

* 実行委員会は、5 月、7 月、9 月、10 月、11 月、1 月に開催した。

2019 年 4 月 13 日(土)14:00-16:00 官報ビル 8 階

第 4 回 「インドの政治社会における宗教とカースト」

講師: アジア経済研究所 名誉研究員 清水 学氏

参加者: 24 名

2019 年 5 月 11 日(土)14:00-16:00 官報ビル 8 階

第 5 回 「中国を視る」ー農村ー

講師: 元奈良大学学長 石原 潤氏

参加者: 19 名

2019 年 6 月 8 日(土)14:00-16:00 官報ビル 8 階

第 6 回: 「インドの経済成長と都市・農村の変容」

講師: 奈良大学 文学部教授 岡橋 秀典氏

参加者: 19 名

2019 年 7 月 13 日(土)14:00-16:00 官報ビル 8 階

第 7 回 「インドヒマラヤの山岳農村の変容と持続可能性」

講師: 奈良大学 文学部教授 岡橋 秀典氏

参加者: 18 名

2019 年 8 月 31 日(土)14:00-16:00 官報ビル 8 階

第 8 回 「離陸するバングラデシュ-30 年の見聞と実践から」

講師: 関西大学 文学部 教授 野間 晴雄 氏

参加者: 17 名

2019 年 9 月 14 日(土)14:00-16:00 官報ビル 8 階

第 9 回: 「バングラデシュの政治の今」

講師: 神戸学院大学 総合リハビリテーション学部

社会リハビリテーション学科 准教授 佐野 光彦 氏

参加者: 11 名

2019 年 11 月 9 日(土)14:00-16:00 官報ビル 8 階

第 10 回 「朝鮮時代の地図に描かれた日本」

講師: 愛知県立大学名誉教授 山田 正浩氏

参加者: 13 名

2019 年 12 月 14 日(土)14:00-16:00 官報ビル 8 階

第 11 回 「アジア総論」 アジアの過去と未来・光と影

アジア市民大学開学 1 年の展望

講師: JAFS アジア大学 学長 實 清隆 氏

参加者: 17 名

2020 年 1 月 11 日(土)14:00-16:00 官報ビル 8 階

第 12 回: 「マレーシアの人口政策と教育」

講師: 拓殖大学 名誉教授 平戸 幹夫 氏

参加者: 14 名

(9) 日本語スピーチコンテスト

JAFS 創立 40 周年記念行事の一環として、アジアと日本の絆を深める一助として、在関西のアジア系留学生対象に日本語スピーチコンテストを開催した。

日時: 2019 年 9 月 29 日(日)14:00-16:00

会場: クレオ大阪中央セミナーホール(大阪市天王寺区)

スピーチ出場者: 留学生 7 名(インドネシア・ベトナム・マレーシア・中国・台湾・韓国)

特別参加社会人 1 名(パキスタン)

聴講者: 40 名(内審査員(当会理事・会員)7 名)

講演テーマ: 「日本に来て思ったこと、感じたこと」 または

「アジア(祖国)と日本」

表彰:

最優秀賞 1 名: インドネシア出身・ドウィ・アグン・ヌグラハさん
(エール学園国際ビジネス学科) 観客賞も受賞、

40 周年記念パーティーでもスピーチ

優秀賞 1 名: ベトナム出身・大阪国際大学のド・ホン・ニョンさん

奨励賞 1 名: 台湾出身・大阪日本語研修センターリン・ショウカンさん

(10) 関連プログラム／その他団体協力

◆(特活) 関西 NGO 協議会

加盟し、理事として運営に関わった。各種催しに出席及び協力活動を行った。特に、常任理事会(副代表理事)に関わり、調整業務にも協力した。

理事会／常任理事会 基本 2 か月毎の出席

KANSAI SDGs 市民アジェンダの事務局の役割として、分科会を実施し、関西地域において SDGs の普及推進に協力。

同時に以下の 3 項目に関しても関西 NGO 協議会の役割を担っている。

- ① NGO-外務省連携推進委員: 関西の NGO と外務省の窓口の役目を担うと同時に東京での会議に出席。
- ② 関西 SDGs プラットフォーム運営委員
- ③ ワンワールドフェスティバル for Youth の運営委員

◆(特活) 関西国際交流団体協議会

- 1) 加盟し、監事として協力した。
- 2) ワン・ワールドフェスティバル:
第 27 回ワン・ワールドフェスティバルに実行委員会の一員として、また活動紹介展示、民族料理屋台にて参加協力した。
期 間: 2020 年 2 月 1 日(土)、2 日(日)
場 所: 北区民センター、扇町公園
来場者: 26,000 名(2 日間のべ人数)
主 催: ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会
参加内容:
① NGO 活動紹介ブースにて活動紹介と各種ボランティア募集の告知とアジアグッズの販売、民族料理屋台ブースでアジア料理の出展協力。
② ワンフェス主催イベントのゲストスピーカーとして協力

◆公益財団法人大阪府国際交流財団

評議員として評議員会出席。協力活動を行った。

◆関西国際交流ボランティアネットワーク会議(KIV-NET)

加盟し、運営委員として協力活動を行っている。

◆(特活) 国際協力 NGO センター(JANIC)

正会員として加盟し、今年度から理事として運営に関わった。特に正会員委員会、地方ネットワーク委員会の委員として実際の運営調整委員としての役割を担っている。

また今年度より JANIC 主催の HAPIC(2 月 14 日)の分科会 2 つにスピーカーとして協力した。

国際協力イベントの「グローバルフェスタ 2019」には、JAFS 関東がチャリティ参加した。

◆認定 NPO 法人ジャパン・プラットフォーム(JPF)

NGO ユニット参加団体として加盟し、緊急支援時の協力関係を持っている。2019 度は助成申請を行わなかった。

◆近畿労働金庫 地域共生推進室

協力関係を持ち、生協などの講師登録を行ったが、2019 年度は依頼が無かった。本会の口座を笑顔プラスへ変更協力を行った。

◆一般財団法人 H₂O サンタ

① 7 月 27(土)チャリティトークイベントに出演 2 回

② 2020 年 2 月 26 日～28 日 H₂O サンタ 第 11 回 NPO フェスティバルに参加。活動出展およびチャリティークを行った。その折に募金を実施し、井戸建設事業へと充てた。

◆日本環境法律家連盟(JELF)

加盟し、6 月 29 日(土)に大阪で開催された「みどりの遺言」セミナーに参加協力した。



アジアチャリティフェスティバルでのタイからの演奏者



住道での JAFS チャリティバザール



アジア市民大学 中国をテーマに講義 石原教授

2. 地区活動

各地域の地区世話人を中心に、本会の活動や理念の普及を計ると共に、アジアに「理解と協力と連帯」の輪をひろげることを目指し地域の催しにも協力しながら活動をした。

- 第 1 エリア：大阪府北部、兵庫県東北部
- 第 2 エリア：大阪府東部
- 第 3 エリア：大阪市内
- 第 4 エリア：大阪府東南部
- 第 5 エリア：京都府、滋賀県
- 第 6 エリア：兵庫県（一部大阪近辺を除く）
- 第 7 エリア：奈良県、東大阪市、八尾市、和歌山県、三重県
- 第 8 エリア：大阪府西南部
- 第 9 エリア：西日本
- 第 10 エリア：東日本
- 第 11 エリア：東海、北陸・甲信越等

(1) 会員拡大・地区活動推進委員会

2019 年度は、昨年に引き続き地域の役員（地区世話人）を中心に、会員拡大・地区活動推進委員会を開き活動を進めていった。地区活動においては新たに「アジア友の会」の設立を推進した。

- ◆会員拡大地域活動推進委員会 計 3 回 のべ 29 名が参加
定例会：8 月 28 日、11 月 13 日、2020 年 1 月 7 日
- ◆新入会員ウエルカムパーティ：
11 月 1 日（金）19 名

(2) 地区世話人一覧

エリア	地区	氏名
1	尼崎	黒谷侑子
	池田	石原基義
	吹田摂津	高田晃宏
	高槻	川上礼子、佐々寿子、西川龍夫、榊田敏弘
	茨木	金井 英夫
2	守口	真田朱美、二野英子
	寝屋川	笠谷正博、菅原直樹、根津千枝子 畠山ひろみ、黒木隼彦
	枚方	明見睦子、天野由紀代、佐々木実、船戸康夫
3	なにわ東	奥 眞里子、杉本 牧子、濱崎佳尚、毛利吉男
	なにわ西	風早正夫、風早茂都子、篠塚達朗、福岡好嗣
	なにわ南	落合朋子、北谷 俊貴、實 清隆、木 泰輔 出口貴之、中西豊次
4	河内長野	新谷百代、丸井和子、橋本洋一
	松原	橋本末子、谷岡康男
	羽曳野	サルマ クルシュナ
	富田林	沖田哲男、真嶋克成、春田希代子、渡辺治彦
5	京都市	安宅義人、辻 賢二、福井えり、柳井一郎
	八幡	福川 肅
6	三田	堀 正之
	西宮	平山隆史

	神戸芦屋	岩崎準一
	姫路	荒川鉄也、中尾和子、森 梢
7	生駒郡	林 昭宏
	生駒市	有山加代子、近藤眞知子、山田穂積
	奈良市	東久保勝彦、福岡名津子、渡邊瑠璃子
	八尾	橋本隆
	新宮	瀧野秀二、中西 洋
8	堺高石	佐藤満昭
9	広島	宇田和博
10	東京	川崎隆二
11	愛知	壁谷桂子、清水三千夫

(3) 第 1 エリア

【尼崎】黒谷侑子【池田】石原基義【吹田・摂津】高田 晃宏【高槻】西川龍夫、榊田敏弘、佐々寿子、川上礼子【茨木】金井英夫

- 5 月 5 日 中山寺子供フェスティバル参加
場所：宝塚中山寺 参加 20 名
- 7 月 7 日 豊中七夕まつり参加
場所：豊中駅前 参加 15 名
- 12 月 15 日 第 4 回 アジアンチャリティフェスティバル参加
場所：大阪国際交流センター

●地区会開催

吹田・摂津地区

- 4 月 6 日 JAFS 活動報告会「インドの支援先を訪ねて」
インド訪問報告（高田会員）と写真展
場所：吹田市立勤労者会館 3 階 参加 8 名
- 6 月 30 日 JAFS 活動報告会（インド）＆「ヨガ瞑想」
① インドの提携先近況（JAFS 事務局）
② 心が緩むお話（ヨガ瞑想）（阿部会員）
場所：吹田市立勤労者会館別館 1 階 参加 5 名
- 10 月 20 日 フリーマーケット出展
場所：高浜神社 参加 5 名
- 11 月 9 日 JAFS 活動報告会（インド）＆「SDGs勉強会」
① 「インドの貧しい農村の子どものための教育支援について」（大本会員）
② 「SDGs についてわかりやすく解説します」（中尾 賢志氏・杉本会員）
場所：吹田市立さんくす図書館 参加 7 名

高槻・島本地区【JAFS 高槻】

- 今年度は、以下の行事を、清潔な水が得られないカンボジア農村の井戸基金に充てる費用を得る目的で実施した。
- 6 月 15 日（土）18:00-20:30
「摂津響 Saal コンサート&蜚鑑賞の夕べ」
場所：高槻市摂津峡・摂津響 Saal
参加 35 名
- 9 月 22 日（日）
第 15 回たかつき NPO 協働フェスタにてパネル展示
場所：高槻市立生涯学習センター
- 12 月 14 日（土）14:00-16:30
JAFS40 周年記念瀬田敦子チャリティコンサート
場所：高槻市摂津峡・摂津響 Saal 参加 52 名
収益金より 5 万円は瀬田敦子さんより里親の会へ寄贈。残りはカンボジア農村の井戸基金に充てた。

<定例会>毎月第1月曜日(13:30~15:00)計11回開催
場所:高槻市総合市民交流センター クロスパル

(4) 第2エリア

【第2エリア合同】

<“JAFS 北河内 緑とふれあう会”>

会長:笠谷正博

- 4月13日 ①遮光ハウス内の土作り ②オクラ・インゲン豆の種まき
③草取り他 (参加9+3(子ども))
- 4月27日 ①じゃがいもの芽かき ②ツルムラサキ・落花生の種まき
③かぼちゃの苗の植え付け④育苗さつまいもの植え付け他 (参加9+1)
- 5月11日 ①じゃがいもの芽かき・土寄せ ②玉葱・空豆の収穫他 (参加8)
- 5月25日 ①玉葱・空豆の収穫 ②玉葱収穫後の耕耘(さつまいも畝の準備)他 (参加9+1)
- 5月30日 【御殿山神社 紫陽花の下草刈り】 (参加4)
- 6月10日 ①さつまいも苗の植え付け ②遮光ハウス内草取り
③ ツルムラサキの移植他 (参加11+1)
- 6月14日 ①紫陽花移植の準備 ②じゃがいもの試し掘り
④ 三度豆の収穫他 (参加8)
- 6月16日 【御殿山神社 紫陽花まつり】
紫陽花植付、朝市 (参加6)
- 6月22日 ①じゃがいもの収穫 ②さつまいもの植え付け ③三度豆、ズッキーニの収穫 (参加11+1)
- 7月6日 ①夏野菜(ミニトマト・インゲン豆・オクラ・トウモロコシ等)の収穫 ②早生枝豆の種まき ③さつまいも畝の草取り (参加11+1)
- 7月20日 ①夏野菜の収穫 ②さつまいも畝の草取り (参加7)
- 8月3日 ①夏野菜(ミニトマト・オクラ・かぼちゃ等)の収穫 ②草取り他 (参加9+1)
- 8月17日 ①夏野菜の収穫 ②さつまいも畝の草取り (参加9+1)
- 9月14日 ①夏野菜(オクラ・ツルムラサキ・ゴーヤ・枝豆・ムカゴ・無花果等)の収穫他 (参加9)
- 9月28日 ①大根畝の草取り・新芽の根元への土寄せ ②遮光ハウスの草取り (参加10+1)
- 10月12日 雨天中止
- 10月16日 ①紫陽花移植の準備 ②草取り (参加5)
- 10月17日 【御殿山神社 紫陽花周りの笹根の除去・植え付け】 (参加8)
- 10月26日 ①芋掘り ②黒豆の収穫 ③芋掘り後の耕耘他 (参加13+3)
- 11月9日 ①玉葱の苗の植え付け ②空豆の植え付け ③みかんの収穫 (参加9)
- 11月23日 ①みかんの収穫 ②大根の収穫他 (参加10)
- 12月4日 ①みかんの収穫 ②ほうれん草・小松菜の種まき ③イチゴの苗の植え付け他 (参加6)
- 12月14日 ①みかんの収穫 ②サンチェ植え付け用の畝の土作り他 (参加10+2)
- 12月28日 ①みかんの収穫 ②サンチェの植え付け ③里芋・シークワーサーの収穫 ④清掃 (参加9)
- 1月11日 ①大根・蕪の収穫 ②草取り (参加10)
- 1月25日 ①大根・蕪の収穫 ②大根の土中での保存 ③ほうれん草・小松菜の植え付け ④じゃがいも畝作り(参加8+1)
- 2月8日 ①みかん・イチゴへの追肥 ②みかんの剪定他(参加6)
- 2月22日 ①じゃがいもの種芋の植え付け ②紫陽花移植の準備

- (参加8)
- 2月25日 【御殿山神社 紫陽花植え付け】 (参加2)
- 3月14日 雨天中止
- 3月21日 ①畝作り ②玉葱畝の草取り ③サンチェの収穫 (参加7)
- 4月4日 ①サンチェの収穫 ②畝作り ③玉葱畝の草取り他
※作業後総会 (参加9)
- ◎ネパール指定寄附(現地青年が農業技術を学ぶための学費他)を贈りました。
- ※定例農園作業は第2・第4土曜日 3~5月 8:00~11:00、6~9月 7:00~10:00、10~11月 8:00~10:00、12~2月 9:00~12:00
天候・作物の状態・JAFS 及び地区活動の関係等でやむを得ない場合変更あり。また臨時作業日もあり。
- ※有志による農園周辺の草刈り、生け垣の剪定、散水設備の修理・新規設置、門扉の修理等多くの作業が随時行われている。
- ※ブログ <https://blog.goo.ne.jp/midori-hureai>(または「JAFS 北河内緑とふれあう会」)
- ※当会の活動はどなたでもいつからでも自由に参加できます。

【守口】真田朱美、二野英子

- 4月2日 (水) 定例会
- 4月6日 (土) 桜まつり チャリティ参加
- 4月7日 (日) 定例会
- 5月11日 (土) だんじり祭り チャリティ参加
- 12日 (日) だんじり祭り チャリティ参加
- 5月25日 (土) 橋波商店街100円市 チャリティ参加
- 6月4日 (水) 定例会
- 7月2日 (水) ドーンセンターにて講演
- 7月27日 (土) 橋波商店街 夜市チャリティ参加
- 8月3日 (土) JAFS 守口 一泊研修
- ~4日 (日)
- 8月20日 (火) 明月祭 説明会
- 8月23日 (金) 明月祭 説明会
- 9月26日 (木) 市民祭り 説明会
- 9月29日 (日) 橋波商店街 FM チャリティ参加
- 10月1日 (水) 定例会
- 10月12日 (土) 明月祭 台風の為 イベント中止
- ~13日 (日)
- 10月26日 (土) 橋波商店街100円市チャリティ参加
- 11月2日 (土) 「ダンスの力」チャリティ参加
- 11月3日 (日) 市民祭 チャリティ参加
- 12月15日 インド コルカタ行き
- ~22日
- 2020年
- 1月26日(水) 第10回商業祭り出店

【枚方】明見睦子、天野由紀代、佐々木実、船戸康夫

- 7月1日(月) 第2エリア主催ネパール報告&親睦会
(参加者 18名)
- 話:熱田典子
於:アイ・アイ・ランド(森の文化園内)
- 7月13日(土) 第15回枚方ティーサロン(参加者16名)
「インドの教育現場から」
話:横山浩平、明見睦子
於:ひらかたサンプラザ生涯学習市民センター第3集会室
- 8月24日(土)~枚方まつり 模擬店チャリティ参加
- 25日(日) 場所:枚方市駅前岡東中央公園

9月8日(日) ひらかたNPO フェスタ2019
展示・チャリティ物品販売で参加
場所:枚方市駅前岡東中央公園
2月16日(日) ハッピーバルーンフェスティバル (協力参加)
場所:寝屋川市立第五中学校
※地区世話人会 4/14、5/19、6/9、7/25、9/6、3/22
ネパールへ井戸を贈ることをめざして活動を行った。

**【寝屋川】笠谷正博、黒木隼彦、菅原直樹、根津千枝子、
畠山ひろみ**

5月12日 地区例会 場所:市民活動センター
5月26日 ぞうすいの会ティーサロン
場所:ふらっとねやがわ
ネパール支援報告 大谷タカコさん 吉田暢子さん
フィリピンエコツアー報告畑中義雄さん、杉本牧子
さん(参加者:19名)
5月29日 国際ソロプチミストコンサート・チャリティ模擬店
場所:ホテルアゴーラ大阪守口
7月1日 第2エリアネパール報告会&懇親会
場所:四条畷アイアイランド
ネパールの水インフラ現地報告 熱田典子さん
(参加者:18名)
7月14日 寝屋川地区会例会(世話人会)
場所:市民活動センター
8月24日 枚方まつり・チャリティ模擬店応援参加
場所:枚方市岡東中央公園
9月15日 寝屋川地区会例会(世話人会)
場所:市民活動センター
10月6日 市民活動センターふれあいフェスタ 展示参加
場所:市民会館
11月16日 ふらっとねやがわまつり 展示参加
場所:ふらっと寝屋川
11月24日 寝屋川地区会例会(世話人会)
場所:市民活動センター
2月16日 ハッピーバルーンフェスティバル チャリティ模擬店
場所:寝屋川市立第五中
3月29日 寝屋川地区会例会(世話人会)
場所:寝屋川市市民会館
※以上の活動によりネパールへバイオガスプラント2基を寄贈。

(5) 第3エリア

**[大阪市なにわ西] 齋藤おる 篠塚達朗 伊藤 勝 風早正夫
風早茂都子 新羅和子 沖本然生 沖本加代子 澤野真樹**

4月1日 まいど大阪おもしろツアー「隠れた桜の名
所と弘法大師の霊験を与えられし地をゆ
く」場所~針中野・駒川中野周辺旧跡・名
跡 参加者 34名
4月26日 なにわ西4月例会 JAFS 事務所会議室
出席 6名
5月18日 阿倍野防災センターでの防災体験+ミニウ
ォーク
場所 阿倍野防災センター+ミニウォーク
(鯛よし百番〜一心寺)
参加者 16名
5月29日 なにわ西5月例会 JAFS 事務所会議室
出席 5名

6月9日 まいど大阪おもしろツアー「東淀川ウォー
ク」場所~東淀川区内の歴史・旧跡 参
加者 16人
6月19日 なにわ西6月例会 JAFS 事務所会議室
出席 5名
7月7日 篠塚と風早の2名で嵐電ウォークの下見・
調査
7月17日 なにわ西7月例会 JAFS 事務所会議室
出席 6名
7月24日 天神祭はも鍋パーティー JAFS 事務所会
議室 参加者 20名
8月例会はお休み
9月11日 なにわ西9月例会 JAFS 事務所会議室
出席 6名
10月15日 なにわ西10月例会 JAFS 事務所会議室
出席 6名
11月16日 まいど大阪おもしろツアー「百舌鳥古墳群
ウォーク」場所~堺市百舌鳥古墳群周辺
参加者 22名
11月27日 なにわ西11月例会 JAFS 事務所会議室
出席 6名
12月21日 なにわ西12月例会及び忘年会 北区西
天満 鯨うろこ 参加者 10名
★12月23日 JAFSへ寄付金納付 インド里親2名及び
女性自立支援 計140000円
2020年 なにわ西1月例会 JAFS 事務所会議室
出席 5名
1月22日 伊藤と風早の2名で比叡坂本ウォークの下
見・調査
2月25日 なにわ西3月例会 出席 6名
3月3日 2月例会は中止

【大阪市なにわ南】中西豊次、出口貴之、ベ木泰輔、實清隆

4月4日 活動協力スタッフミーティング
場所:JAFS 事務局 参加者:2名
5月15日 スタッフミーティング
場所:JAFS 事務所会議室 参加者:3名
エリー・コーヘンチェロコンサート
5月25日 場所:モーツァルトサロン 参加者 4名
6月15日 摂津峡 Saal のコンサートとホテル観賞参
加
場所:Saal 参加者:2名
7月8日 アジフェス実行委員会
場所:JAFS 事務所会議室 参加者:4名
7月11日 なにわ南地区会
場所:JAFS 事務所会議室 参加者:6名
7月20日 なにわ南ウォーク北加賀屋
場所:大阪市住之江区北加賀屋周辺
参加者:10名
8月4日 サマーインイングリッシュ 8月
参加者:6名
8月28日 会員拡大地域推進委員会
場所:JAFS 事務所会議室
参加者:6名
9月5日 アジフェス実行委員会
場所:JAFS 事務所会議室 参加者:4名
9月10日 谷原さんと打ち合わせ 1名
10月4日 アジフェス実行委員会
場所:JAFS 事務所会議室 参加者:4名

10月6日 JAFS 活動案内
場所:住吉区役所、関西研修センター
参加者:3名

10月30日 アジフェス実行委員会
場所:JAFS 事務所会議室 参加者:4名

11月7日 アジフェス実行委員会
場所:JAFS 事務所会議室 参加者:4名

11月13日 会員拡大地域推進委員会
場所:JAFS 事務所会議室 参加者:4名

11月19日 なにわ南地区役員会
場所:住吉区役所 参加者:6名

11月20日 アジフェス実行委員会
場所:JAFS 事務所会議室 参加者:4名

11月21日 アジフェスチラシを住吉区役所に持参

12月15日 アジアンチャリティフェスティバル
場所:大阪国際交流センター
参加者:19名(南地区)

(6) 第4エリア

【河内長野・大阪狭山市】白井春夫、今井利子、新谷百代
丸井和子

2019年 第12回河内長野アジア友の会月例会
5月27日 SDGs 持続可能な開発目標について
講師:新西宏之氏
場所:ノバティホール会議室A参加者:16名

7月22日 第13回河内長野アジア友の会月例会
楊枝の歴史と文化について
講師:稲葉修氏
場所:ノバティホール会議室A参加者:12名

9月23日 第14回河内長野アジア友の会月例会
夢を叶えて60年~そして
講師:道本雅秀氏
場所:ノバティホール会議室A参加者:8名

11月25日 第15回河内長野アジア友の会月例会
アナウンサー徒然草
講師:嶋田崇彦氏
場所:ノバティホール会議室A参加者:10名

11月25日 JAFS40周年瀬田敦子チャリティーコンサート
瀬田敦子ソロピアノコンサート
「ショパンの美しい調べ」
場所:河内長野ラプリーホールホワイエ
参加者:65名

2020年 第16回河内長野アジア友の会月例会
1月27日 SDGs 持続可能な開発目標について
講師:新西宏之氏
場所:ノバティホール会議室A参加者:9名

2月27日 河内長野アジア友の会役員会
会長選任により新役員を選出
会長に渡邊喜久次氏就任
場所:ノバティホール会議室B参加者:5名

【南河内・松原地区】橋本末子、谷岡康男

2019年 中国にルーツのある高春子さんの聞き取り会
6月29日 場所:松原市立総合福祉会館 2階会議室
参加者:25名
カラフル松原実行委員会(カラフル松原サポーター)
8月24日 場所:松原市立総合福祉会館 2階会議室
参加者:14名

10月3日 松原小・中学校校長会
カラフル松原交流会紹介
場所:松原市教育委員会
参加者:2名

10月19日 第1回カラフル松原
「外国にルーツを持つ人の思い悩みを聞く」
場所:松原市立総合福祉会館 3階 会議室
参加者:55名

11月9日 松原第三中学校区ヒューマンタウンフェスタ
場所:松原第三中学校グランド
参加者:20名(中学生15名)

2020年 第2回カラフル松原実行委員会
1月18日 場所:松原市立総合福祉会館 2階
参加者:14名

1月25日 カラフル松原ユース実行委員会
場所:松原市立総合福祉会館 図書室
参加者:5名

2月15日 第2回カラフル松原
場所:松原市立総合福祉会館 3階
参加者:57名

★スタッフ会議は、毎月、橋本ハウスまたは松原総合福祉会館にて開催。

★2019年度 JAFS 海外プロジェクト ネパール バイオガスプラント1基寄付 3万円

★広報活動(JAFS松原ブログでイベント告知、活動報告を掲載)

【富田林】沖田哲男、真嶋克成、春田希代子、渡辺治彦、古川光
照、岡本修

2019年
4月13日 富田林地区役員会 年間行事計画打合せ
場所:沖田哲男地区会長宅 参加者:6名

5月22日 富田林地区役員会 大台ヶ原ハイキング打合せ
場所:沖田哲男地区会長宅 参加者:6名

6月1日 富田林地区会 大台ヶ原ハイキング
場所:奈良県大台ヶ原 参加者:15名

6月29日 富田林地区役員会 テニス&バーベキュー
企画・打合せ
場所:沖田哲男地区会長宅 参加者:6名

7月6日 富田林地区会 バーベキュー(雨天の為テニス中止)
場所:沖田哲男地区会長宅 参加者:6名

2月1日 富田林地区会 金剛山登山&鍋パーティー
場所:沖田哲男地区会長宅 参加者:8名

3月15日 富田林地区会 寺内町 雛めぐり(コロナウィルスの為中止)

毎月第4土曜日 富田林地区会 瀧谷不動尊縁日でバザー
場所:瀧谷不動駅前

(7) 第5エリア

【京都・宇治・野洲・八幡】辻賢二、金井英夫、福井えり、柳井一郎、
安宅義人、福川肅】

4月6日 京都フリーマーケット参加
場所:梅小路公園

4月19日 京都地区会 場所:洛南教会

5月22日 第7回アジア子ども支援勉強会
『インドの農村学校「日印友好コスモニケタン

学園』の過去、現在、未来について』
 ゲスト:コスモニケタン教師等 4 名
 場所:洛南教会
 6 月 9 日 京都ぞうすいの会
 『貧困といのち』
 ゲスト:村上公彦事務局長 場所:洛西教会
 7 月 13 日 京都チャリティミニコンサートと夕食会
 『祇園祭のタベに
 オーボエとヴァイオリンで巡る世界紀行』
 場所:バザールカフェ
 8 月 31 日 夏のイベント出展協力
 9 月 1,7,8, 場所:泉大津
 14,15 日
 9 月 20 日 京都地区例会 場所:洛南教会
 10 月 15 日 第 8 回アジア子ども支援勉強会
 『カンボジアの今
 井戸支援・子ども支援・貧困支援等』
 ゲスト:横山浩平スタッフ 場所:洛南教会
 11 月 3 日 府民交流フェスタ参加
 場所:京都府立植物園
 11 月 11 日 京都地区会 場所:洛南教会
 11 月 23 日 バザールカフェフェスタ参加
 場所:バザールカフェ
 12 月 15 日 第 4 回アジアチャリティフェスティバル参加
 場所:大阪国際交流センター
 2020 年 京都地区例会&オーボエ演奏会&新年会
 1 月 19 日 場所:洛西教会
 2 月 1,2 日 ワンワールドフェスティバル出展協力
 2 月 17 日 京都地区例会 場所:洛南教会
 2 月 29 日 世界の竹中真 チャリティピアノコンサート
 コロナウイルスにより延期 場所:京都教会
 3 月 23 日 京都地区例会 場所:洛南教会

(8) 第 6 エリア

【西宮】平山隆史

4 月 27 日 活動パネル展示とバザー参加
 場所:西宮中央教会 ふれあいマーケット
 10 月 23- 活動パネル展示
 28 日 場所:西宮市国際交流協会ロビー(フレンテ
 西宮)
 2020 年 西宮国際交流デーに参加
 2 月 9 日 活動パネル展示、JAFS 物品等販売
 場所:フレンテ西宮

【芦屋・神戸】岩崎準一、鈴木 誠也、戸田恭子

4 月 13 日 春咲緑日に参加
 JAFS 物品等販売
 場所:芦屋 木口記念会館

【姫路】森 梢、荒川鉄也、中尾和子

12 月 ネパール視察 地区で送った井戸の視察を地区を
 代表して荒川鉄也が現地に赴いた。

(9) 第 7 エリア

【奈良・生駒・東大阪市・八尾市・新宮市】金剛一智、渡邊瑠璃子、

東久保勝彦、和田達郎、福岡名津子、山田穂積、有山加代子、 林昭宏、末永雅典、坂上やよい、南野紀美子、日下千代子、 橋本隆、龍野秀二、中西洋】

2019 年 奈良地区会 どんぐり大作戦話し合い
 6 月 12 日 場所:奈良市中部公民館 参加者:5 名
 6 月 22 日 生駒市ららばーと 出展&出店
 場所:生駒市ららばーと 参加者:4 名
 7 月 10 日 奈良地区会 奈良市ポイント制に加入可能
 かどうか検討
 場所:奈良市中部公民館 参加者:5 名
 8 月 3 日 生駒どんどこまつり 準備
 場所:有山加代子会員宅 参加者:3 名
 8 月 4 日 生駒どんどこまつり パネル展示&出店
 場所:生駒健民グランド 参加者:13 名
 8 月 27 日 奈良地区会 鹿愛護協会に協力依頼
 場所:奈良市中部公民館 参加者:5 名
 9 月 12 日 奈良地区会 ドンクリを使つての工作などを
 検討。講師を探す。
 場所:奈良市中部公民館 参加者:6 名
 10 月 25 日 奈良地区会 どんぐり通帳作成会議
 場所:奈良市中部公民館 参加者:5 名
 10 月 26 日 第 2 回 行基感謝祭
 場所:奈良公園 参加者:4 名
 11 月 7 日 奈良地区会 鹿愛護会訪問
 場所:鹿愛護会 参加者:4 名
 第 5 回チャリティライブ生駒 実行委員会①
 出演者候補一次検討
 場所:生駒市コミュニティセンター参加者:13 名
 12 月 4 日 第 5 回チャリティライブ生駒 実行委員会②
 出演者候補 1.5 次、チラシ検討、出店者候補
 検討
 場所:生駒市コミュニティセンター参加者:12 名
 2020 年 第 4 回チャリティライブ生駒 出演者打合せ
 1 月 19 日 出演者説明会
 場所:生駒市コミュニティセンター 参加者:6 名
 1 月 25 日 生駒市ららばーとまつり 準備
 生駒市北コミュニティセンター はばたき
 参加者:3 名
 1 月 26 日 生駒市ららばーとまつり パネル展示&出店
 生駒市北コミュニティセンター はばたき
 参加者:6 名
 1 月 27 日 第 5 回チャリティライブ生駒 実行委員会③
 プログラム案検討
 場所:生駒市コミュニティセンター参加者:8 名
 1 月 29 日 奈良地区会 どんぐり通帳の見積もり、予算
 場所:奈良市中部公民館 参加者:6 名
 2 月 11 日 お竹送りウォーク
 場所:東大寺・2 月堂 参加者:6 名
 3 月 14 日 第 5 回チャリティライブ生駒 (新型コロナウイ
 ルス症感染防止の為延期)
 場所:生駒市コミュニティセンター
 毎週金曜日 アイビー歌声サロン
 場所:生駒たけまるホール

(10) 第 8 エリア

【堺市・高石市・和泉市】佐藤満昭

7 月 15 日(祝) 第 11 回サマーギターチャリティコンサート
 参加 120 名

4月～12月 場所:堺市北野田 東文化会館
毎月第一日曜日
佐藤手芸教室 高石フリーマーケット
南海高石駅アプラホール前
2020年 第22回新春チャリティ小品展支援
1月9日～ 場所:堺市甲斐町ギャラリーいろはに
2月5日

(11) 第9、10エリア

【関東活動委員会(首都圏)】石田雅昭、岩田芳晴、川崎隆二、小島学、高岸泰子、森山 涼子、原 京、端無勝、佐藤理香、武田明沙香、河合典子、山本隆、長谷川雅子、田中壽美子

JAFS 関東は、湯川副会長のご好意によりキャビネットビルをお借りし、活動委員会を行ってきた。

地域活動目標をパダトラ小学校の子どもたちの就学支援(インド山岳地帯で暮らすアディヴァンと呼ばれる先住民たちは、身分制度としてのカースト 外の更に下層に位置付けられ、永く社会において差別されてきた。こうした境遇の子どもたちが、学校で学び、将来は職を得て自立できるように、日印友好学園「パダトラ小学校」が設立された。先住民族の子ら 70 人が学んでいる。)とし、アジア里親の会を通じて、継続した支援を行なっている。プロジェクト支援のため にイベントを通じた資金集めを行うとともに、JAFS の広報や会員親睦なども積極的に行っている。

特記事項として今年は、関東を直撃した台風 19 号は関東一円に大きな被害を出した。JAFS 関東として例年行っているウォークソン(チャリティーウォーク)を被災者支援のためのボランティアに変更し、メンバーはそれぞれの地域で泥カキなどのボランティアを行った。5 月に来日した日印友好学園コスモニケタン(インドカルナータカ州ビジャプーラ)の教師 4 名を迎えて、現地報告と交流会を実施。12 月に台風19号被災者支援「竹中真チャリティ JAZZ ピアノコンサート」(場所:日本基督教団久ヶ山教会)集まった支援金は福島県いわき市阿武隈流域の被災家庭や被災した保育施設(こども園)への支援を継続している須賀川教会を通して、被災された方々への支援を行った。

10 月実施されたグローバルフェスタ JAPAN2019 に参加(場所:お台場・センタープロムナード公園)活動展示と飲食ブースが、同じテントとなったが、活動展示への関心は少なかった。一方飲食のベトナム麺「ブンスウォン」は毎年楽しみに来てくれる人も出てきた。JAFS 関東の備品整理 2 カ所(①端無氏方倉庫、②銀座キャビネットビル 7 階)の整理を行った。

日本社会と同様、活動委員の高齢化が進み、活動遂行に限りが出てきた。若い人の参加が大きな課題である。

●活動委員会を6回開催した。

●広報活動報告 JAFS 関東ブログを管理運営。イベント告知や活動状況を発信。JAFS Facebook ページに、年間を通じ随時活動状況を発信。Facebook での交流の場「JAFS 活動連絡室」を運営。



京都地区会 アジア子ども支援勉強会

3. 広報

(1) アジアネット

アジア各地で様々な支援活動を展開している本会の事業を、年4回発行の会報「アジアネット」誌面で紹介した。会員や寄付者などの支援者に「アジアネット」を送付するとともに、新たに本会を知る人を増やすべく、全国の国際関連施設の情報コーナーなど公開スペースに向けても送付した。また日本在住の外国人向け、およびアジアを始め海外の人向けに、アジアネット各号について、ヘッドラインと写真を中心に英訳した英語版を作成した。英語版はホームページにて公開するとともに、フェイスブックにて国内外に発信した。

《アジアネット発行実績》

◆138号 2019年7月発行 (36ページ、5,000部)

- 表紙写真 拾ったペットボトルを手に水くみに来たネパールの親子
- 巻頭言 令和時代の幕開けに
- 特集 ネパール震災復興へ新プロジェクト
- インド・コスモニケタン学園の先生来日
- HIVと闘う南インド支援地訪問記
- バンガロール職業訓練学校が開校
- サイクル・エイド、カンボジアへ373台
- フィリピン、植林からエコツアーへ
- JAFS40周年を前に ③子ども支援は今…
- 井戸寄贈報告
- 2018年度の活動報告／2019年度の実施予定
貧困対策、環境、水、子ども、国際交流、罹災者支援、
サイクル・エイド、国内での普及啓発
- 2019年度 社員総会報告
- JAFS プラザ 国内の活動
- 新入会員ご紹介・領収報告
- 新・The 社会貢献 法人会員紹介
- 環境コラム、編集後記

◆139号 2019年10月発行 (32ページ、5,200部)

- 表紙写真 1980年にインドに完成したJAFS 寄贈第1号井戸の今
- 巻頭言 日本のアジア平和希求への証
- 特集 JAFS 創立40周年を迎えて
- JAFS40周年を前に ④貧困支援は今…
- 地区会紹介 われら JAFS の仲間たち①
- フィリピン映画祭で「セカミズ」上映
- 第6回アジア・ユースサミット
- 井戸寄贈報告
- ネパールのプロジェクト地報告
- 36回目数えた土と水と緑の学校
- JAFS プラザ 国内の活動
- 新入会員ご紹介・領収報告
- 里子の笑顔、アジアの友から
- 環境コラム、編集後記

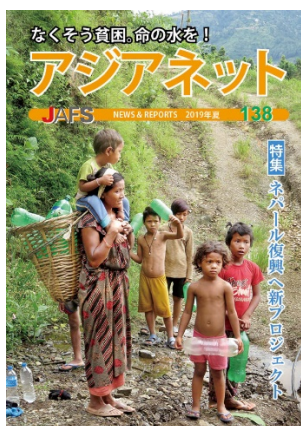
◆140号 2020年1月発行 (28ページ、4,800部)

- 表紙写真 バリ島初の世界遺産ジャティルウィ棚田を見学するアジア国際ネットワークセミナー参加者
- 巻頭言 伝説の戦場記者
- 特集 「リーダー育てる教育」セミナー
- ネパールの水インフラ現地報告
- 荒れた泉を救う闘いーインドネシア

- 井戸寄贈報告
- 未来を見据えて JAFS40 周年記念式典
- 作文・スピーチコンテスト優秀作
- 新・The 社会貢献 法人会員紹介
- 地区会紹介 われら JAFS の仲間たち②
- JAFS プラザ 国内の活動
- 新入会員ご紹介・領収報告
- 里子の笑顔、アジアの友から
- 環境コラム、編集後記

◆141 号 2020 年 4 月発行 (32 ページ、5,000 部)

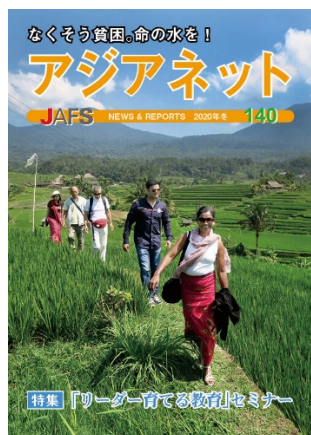
- 表紙写真 ネパールの険しい山中に金属パイプを埋めてつなぐ大規模揚水システム建設工事
- 巻頭言 アジア人同士の交流・刺激・協働
- 特集 ネパールへのかけ橋つとめ 20 年
- ネパールの森づくりも 20 年
- 「土水」の輪、フィリピンに広がる
- インドネシアで植林と環境教育
- 近大生がカンボジアの子の夢を応援
- アジア・フレンドシップ財団発足へ
- 海外からの報告(英和对訳) インド少数民族の学校
- 井戸寄贈報告
- アジア・ユースサミット参加の高校生がプロジェクト実行
- JAFS プラザ 国内の活動
- 地区会紹介 われら JAFS の仲間たち③
- 新入会員ご紹介・領収報告
- 里子の笑顔、アジアの友から
- 環境コラム、編集後記



第 138 号



第 139 号



第 140 号



第 141 号

(2) ホームページ／フェイスブック

本会のイベント情報やニュースなどを随時更新し発信した。

<ホームページ> <https://jafs.or.jp>

<フェイスブック> <https://www.facebook.com/JAFS.NGO>

4. プロジェクト支援 (ファミリーグループ)

(1) ぞうすいの会

(風早茂都子)

「ぞうすいの会」の「ぞうすい」は、「雑炊」「増水」「贈水」の意味をかねている。質素な雑炊をとることで自分たちの過食や健康を見直すとともに、「ぞうすいの会」への参加費を積み立てて、アジアの人々に井戸などを贈り、衛生的な水の供給を行ってきた。毎月1回(年間 11 回※8月休み)開催で、アジア協会アジア友の会事務局から各国でのプロジェクトについての現状を聞きながら、季節の香り高い雑炊を頂いている。今後も、会員のみなさまの深いご理解と温かいご支援を得ながら、活動を続けていきたい。今年度はこれまでの積み立てによりインドに井戸を贈ることができた。

- | | |
|-----------|---|
| 4 月 9 日 | 第 372 回「フィリピン支援報告」天野 澄子
小柳 一郎 参加 17 名 |
| 5 月 14 日 | 第 373 回「ネパールプロジェクト報告」(水・子ども・環境)熱田 典子 参加 18 名 |
| 6 月 11 日 | 第 374 回「フィリピン報告・病気予防の大切さ」杉本 牧子 参加 17 名 |
| 7 月 9 日 | 第 375 回「日印友好学園コスモニケタン・先生来日報告」大本 和子 参加 19 名 |
| 9 月 10 日 | 第 376 回「第 36 回土と水と緑の学校報告」柿島 裕 参加 13 名 |
| 10 月 8 日 | 第 377 回「映画セカイイチャイシイ水・フィリピンでの上映会報告」岡本 佳子 参加 16 名 |
| 11 月 12 日 | 第 378 回「第 29 回アジア国際ネットワークセミナー報告」法花 敏郎 参加 15 名 |
| 12 月 10 日 | 第 379 回「カンボジア支援報告」横山浩平 参加 17 名 |
| 1 月 14 日 | 第 380 回「ネパールプロジェクト報告(ネパールへのかけ橋 20 周年を迎えて)」熱田 典子 参加 19 名 |
| 2 月 18 日 | 第 381 回「インドネシア・アチュ植林&環境教育ツアー報告」伊藤 勝・杉本 牧子 参加 21 名 |

(2) アジア井戸ばたサロン

(代表 澤村和子 顧問 小原純子)

『1990年「WINA2000」アジア国際女性会議』(小原純子JAFS 副会長 企画実施)がインドネシアで開催された。これを機に1992年アジアの女性の地位向上に寄与するという目的で「アジア井戸ばたサロン」の活動を始めた。

「和」の心を基に、和紙を中心としたサロン独自の手作り作品、その他工芸品作りなどに力を入れ活動を続けている。作品も多彩となり成果を上げている。本年度も目的達成のために設立された「水がめ基金」から「JAFS里親の会」に例年通りの支援をし、インドの子ども3名の支援をおこなった。さらに毎年アジアで行われ

ている「アジア国際ネットワークセミナー」(AINS)での参加者プレゼント用の手作り作品の製作を続け、今日に至る。

<活動>

- ペーパークラフトを主に手作り工芸品の製作
(季節のカード・色紙・メモ帳・箸袋・香袋など)
- ・大阪梅田スカイビル トゥギャザーにて作品展示も行う
- ・毎週火曜日 午後1時～3時

(3) スリランカ・サルボダヤ友の会

(代表 船戸康夫)

スリランカ現地提携団体 NGO「サルボダヤ」との絆を深め、農村開発運動を支援し活動の輪を広げることが目的とする。スリランカを知り、楽しむイベント・講座等を開催や、活動支援のためバザー等に出展し、様々なボランティア活動をおこなっている。今年度は農村開発活動とともに井戸1基の建設を支援した。

- | | | |
|--------------------|-----------------------|--|
| 4月13日 | 総会 | 場所:JAFS 会議室 |
| 7月6日 | 第28回スリランカ講座 | |
| | | 於:ログダグループヌワラカデ |
| | | 『スリランカ料理を楽しむ会
元気になるスパイスで暑い夏を乗り切ろう!』 |
| 8月31日 | 泉大津イベント | 出展参加 |
| 9月1,7,8,
14,15日 | | 場所:泉大津フェニックス |
| 10月27日 | 第45回四條畷市民の集い | 出展 |
| | | 場所:JAFS 会議室 |
| 11月2日 | 例会 | 場所:JAFS 会議室 |
| 12月15日 | 第4回アジアンチャリティフェスティバル出展 | |
| | | 場所:大阪市国際交流センター |
| 2月1,2日 | ワンワールドフェスティバル出展協力 | |
| | | 場所:扇町公園 |
| 2月15日 | 第29回スリランカ講座 | 場所:JAFS 会議室 |
| | | 『私が育った光輝く島スリランカ』 |
| | | ゲスト:マドゥーシ パーギヤ氏 |

(4) 日印友好学園支援会

(支援会会長 柏木道子) 支援会メンバー:11名

2019年度は、日印友好学園コスモニケタンの運営を引き続き支援した。同時に40周年記念事業の一環として、2019年5月17日から26日までの期間、同校から先生3名、BSVIA スタッフ1名を招聘。来日プログラム実施のサポートを行った。

コスモニケタン学園の運営状況においては、里親の数も減少傾向にあるために、支援額も大幅に削減。インド政府からの教育に対する規制も厳しく、過去2年間実施してきたサマーコースも取り消され、現場での収入確保がさらに厳しい状況になった。現在、English Medium スクールの正式な設立(残り3年)に向けて体制を整備中であり、これが完成するとある程度の自立収入が確保される。

(5) JAFSネパールへのかけ橋

(代表 岡田光浩 書記 渡辺治彦/長 克宣)

ネパールをこよなく愛する者を参加資格とし、JAFSのネパールでの活動の支援を目的とし2000年に発足する。

活動のテーマは、「ネパールの子供たちの支援」。2003年度より、

冬季ワークキャンプ(バイオガス建設ワークキャンプ)の自主活動を継続し、バザーによる資金調達・現地でのボランティアワークなどを行ってきた。原則として、毎月1回(第2土曜日17時～)例会を行ってきた。今年度の活動内容は以下の通り。

今年度の活動内容は、ネパ橋20周年に向けた記念行事や記念イベントの計画を中心に、ネパールからの来訪者へのサポート活動やネパール支援のための資金確保に向けた各種バザーへの参加を実施した。

今年度のプロジェクト支援は、ボテンパ村の山間部にある小学校の教室建設費用の支援をおこなった。また、継続的支援として里親の会を通して、ビトゥリ村の元里子で身体障害をもつフルマヤさんの自立支援を実施している。

次年度は、新型コロナの影響による活動の影響が懸念されますが、ネパ橋結成20周年を契機として広くネパールに興味を持っていたり、各イベントの企画等を実施するなど、魅力ある活動となるよう、検討を進めていきたい。

- | | | |
|-------------|-----------------------|--------------------------|
| 4月13日 | 例会 | (5名) ※熱田さん、ネパールよりSkype参加 |
| 5月11日 | 例会 | (9名) |
| 6月15日 | 例会 | (5名) |
| 7月7日 | 例会 | (12名) |
| 8月17～22日 | アジアユースサミットボランティア参加 | (5名) |
| 8月23日 | 枚方祭り準備 | |
| 8月24～25日 | 枚方祭りチャリティ出店 | |
| 8月26日 | ネパール来日メンバー歓送迎会 | (10名) |
| 9月14日 | 例会 | (6名) |
| 10月14日 | 例会 | (6名) |
| 11月3日 | 東大阪国際交流フェスティバルチャリティ出店 | |
| 11月9日 | 例会 | (6名) |
| 11月23日 | 枚方多文化フェスティバルチャリティ出店 | |
| 12月15日 | JAFSアジアンフェスティバル出店 | |
| 12月15日 | 例会・忘年会 | (8名) |
| 12月28日～1月4日 | ネパ橋20周年記念ツアー | (13名) |
| 1月11日 | 例会・新年会 | (8名) |
| 2月15日 | 例会 | (5名) |
| 2月16日 | 寝屋川バルーンフェスティバルチャリティ出店 | |
| 3月14日 | 例会 | (4名) |

(6) PAON

(代表 谷阪洋子)

アジア家庭料理教室の参加者の中から有志のメンバーが集まり、料理を活かしたボランティア活動を行っている。アジア各地の料理を通じて、各地域の文化を体験・理解すること、その活動の中で、必要とされる支援を行っていく事を目的としている。飲食店出展や料理を通じた文化交流プログラム等を企画し、PAONとしてJAFSの海外プロジェクト支援、特に安全な飲料水の支援を目標に活動している。

- | | | |
|--------------------|--------|--------|
| 8月31日 | 夏のイベント | 出展協力 |
| 9月1,7,8,
14,15日 | | 場所:泉大津 |

(7) JAFSオアシス会(中国教育医療支援会)

(代表 ジャミラ ウライム)

オアシス会はアジアの中に“理解と協力と連帯”の輪を広げるというJAFS基本理念をすすめていくために、相互の国の文化や歴史を学び、お互いに尊重し、理解し合う場を創り出すことを目的と

する。シルクロードを通じて日本にもたらされたものを「文化交流」により見出し、日本文化の原点を身近に感じること、私達の日常に根付いている文化を再認識し、それぞれが培ってきた伝統文化や精神を次の世代にバトンタッチできるよう、アジアの一員として未来に向けた活動を行う。今年は以下の活動を行った。

8月31日 夏のイベント 出展協力
9月1,7,8, 場所: 泉大津
14,15日
12月15日 第4回アジアンチャリティフェスティバル参加
場所: 大阪国際交流センター
1月21日 交流会 場所: ムカーム

(8) アジアネットワーク奨学会

(代表 古賀 旭)

アジアネットワーク奨学会は、専門職を通して将来アジア社会の発展や人々の福祉の向上に大きく貢献するとみなされる若手の人材育英資金(奨学金等)を支給するための支援会である。2019年度は、フィリピンのアジア社会科学院(ASI)の地域開発コースに同校から推奨された Ms. Jeraldine O. Bigcas を支援。

その他、インドの現地提携団体の HDSI の後継者である Mr. Gaius Thorat のナグプール大学社会開発学科の学費を1年間支援した。

(9) ネパール子ども夢基金

ネパールの子どもたちが「夢」そして「希望」のあふれた未来作りができるよう、様々な体験を通じた成長を目指す子どもたちの教育支援。会員として支援者を募ると共に、ネパールにて12月末実施の子ども環境セミナーを実施の支援を行った。

(10) ネパール地域医療支援会

(担当理事: 小原純子副会長)

ネパールの農村エリアの地域医療向上及び母子保健向上をサポートする支援会。

今年度は、山間地の女性たちの生理用布パッドを手作りで作る活動を引き続き実施し、毎週火曜日及び自宅などでの作成により約100名の女子生徒達に配布した。また支援金のために引き続きブルトップ回収を行い3年分190キロを換金し、16,150円を支援に充てることが出来た。

(11) サイクル・エイド支援会

「放置自転車を再生し、世界の子どもたちに贈ろう!」を合言葉に誕生したサイクル・エイドは、放置自転車を府内市町村の協力のもと、修理、再生し、海外の子どもたちに贈る事業。子どもに自転車を贈ることで、教育環境の向上につながり、環境にやさしい貴重な移動手段として、地域の福祉環境改善のために再生自転車を有効利用している。自転車を通じた国際交流の絆を深める目的を進めていくためにサイクル・エイド支援会を設立。様々なイベントでの広報活動や自転車を輸送するための寄付協力を募っている。

(12) JAFS パーラト会

(代表 巽 正憲)

毎月第3火曜に例会を開催し、インド国歌を歌い、ヒンディー語を勉強しインドの歴史、文化、最近のインドについて学習している。時には、外部講師も招き、インドについての理解を深めている。

インド映画やイベントの情報交換も行っている。

今年度は、インドのチャイルドアカデミー、パダトラ小学校への支援をおこなった。またJAFSイベントに協賛した。

例会: 4月16日、5月21日、6月18日、7月16日、
8月20日、9月17日、10月15日、11月19日、
12月17日、1月1日、2月18日、3月17日

12回の例会等で、延べ97人が参加。

活動は5年目に入って、インド旅行も計画中。

(13) JAFS 歌声サロン

(代表 有山京子)

ピアニスト有山京子の伴奏をバックに、好きな歌を歌い、日頃のストレスを発散しながら、国際貢献をする自主活動グループ。2016年度から、活動を開始し、今年度は参加費の一部をインド子ども教育支援(インド、ナグプール県のチャイルドアカデミー)、アジアフレンドシップ夢基金へ寄付を行なった。

例会: 4月9日、5月14日、6月11日、7月9日、9月10日、
10月8日、12月10日、2月4日、のべ38名が参加

(14) JAFS ワンコインセミナー

(代表 有山京子)

2019年度は英会話以外に健康講座、イスヨガ、金融の話などを開催しました。

ワンコインセミナーは沢山の講師の先生をお招きして、広範囲に及ぶセミナーですので、多くの情報を得られるチャンスです。

会費の一部はインド子ども教育支援への支援とした。

英会話例会: 4月3日、4月11日、4月18日、4月25日、
5月16日、7月11日、7月25日、9月26日
のべ23名が参加

ワンコインセミナー: 4月10日、22日、7月9日、20日、8月29日
9月10日、19日、10月15日、11月12日、12月
10日、17日
のべ70名が参加

(15) JAFS 旅人(たびんちゅ)

(代表 有山京子)

旅の好きなものが集まり、折々の季節を楽しみながらチャリティ企画で旅をしています。会費の一部はアジアフレンドシップ夢基金に寄付した。

6月15日 天正寺坐禅会
～16日 場所: 大阪市天王寺区 参加者: 7名
8月1日 姫路本覚寺1泊座禅会
場所: 姫路市花田 参加者: 11名

5. JAFS40 周年記念委員会

委員長:小原純子
副委員長:山田英男、湯川 剛

(1) 式典委員会

委員長:小原純子
副委員長:吉田俊朗、福澤邦治
日時 2019年10月5日(土) 11:00～
場所 つるやホール
(〒541-0053 大阪府大阪市中央区本町3丁目 3-5)
式典の主旨 「40年の感謝。そしてこれからの JAFS」

<記念式典概略>

I.記念式 (11:00～12:00)

II.記念パーティー (12:30～14:30)

シタール演奏

参加者 152名

内訳:・式典:137名(内訳:招待 27、理事 23、一般永年 46、
一般会員 41)

・関係者 15名(内訳:司会者 1、演奏者 1、ボランティア 6、スタッフ 7)

・パーティー参加者 107名

(2) 募金委員会

委員長:湯川 剛
副委員長:上野孝一
委員:森本榮三、櫻井紘哉
募集期間:2019年4月15日～12月31日
第1次募集:2019年4月15日～9月28日
第2次募集:～12月31日
募金金額:1,000万円
募金使用用途:JAFSの活動推進のため

- ① 40周年記念式典
- ② 40周年記念誌
- ③ ビジョン策定及び発表
- ④ 作文コンテスト
- ⑤ 日本語スピーチコンテスト
- ⑥ 40周年記念井戸をインドに贈る 等

募金方法:

- ① 40周年記念式典プログラム協賛広告
- ② 一般募金

募金総額: 7,395,875円 341件

協賛広告: 18件

(3) 記念誌委員会

委員長:櫻井紘哉
副委員長:富松英二
委員:斎藤かおる
記念誌発行要領
目的:40年間の活動まとめた活動 PR 用配布資料
配布対象:式典参加者、社員会員、活動PR用
発行日:2019年10月10日
発行部数:1,500冊
ページ数:64ページ

(4) ビジョン委員会

委員長:米田明正
副委員長:池田直樹
委員:熱田親憲、寺西浩章
山下泰之、渡辺治彦、小山田宗弘、西田貞之
毛利吉男、出口貴之
役割:中長期ビジョン作成
「これからの10年～50年周年に向かう JAFS のビジョン」策定

ビジョン委員会全体会議と、コア・ミーティングとの2段階の会議構成により、新しいスローガンの決定後、内外両面の充実をはかる具体的な目標、数値目標を設定し、ビジョンの策定を行う。

- ① 10月5日の式典時に新ビジョン骨子を発表
- ② 2020年度総会にてビジョン発表予定。

(5) 会員サービス委員会

委員長:吉田俊朗
副委員長:森本榮三、西田貞之
委員:橋口高明
JAFS40 周年の活動の上で、永年会員や功労者の方々に対する感謝をお伝えすることを目的として以下を準備。
①感謝状
・永年会員感謝状 582件
・支援活動感謝状 20件
②記念品:エコバック作成

(6) 作文コンテスト委員会

委員長:法花敏郎
副委員長:藤原正昭、新田香織
「作文コンテスト」の実施
応募期間:4月10日～7月20日
審査委員長:萩尾千里 副審査委員長:村上公彦
入賞発表:9月20日
賞状授与:40周年式典にて
賞金:優秀賞 5万円 佳作 1万円(+それぞれに副賞)
広報状況:
チラシ 15,000枚、ポスター100枚 作成
広報先:大学、関係団体約 200 団体に依頼
各新聞社及び NGO 関係団体にプレスリリース
応募数 86件
佳作 3名(式典にて表彰(賞金 1万円、副賞 万年筆))
アジアネット 140号にて作文掲載

(7) 記念イベント委員会

委員長:沖田文明
副委員長:井上勇一、坂口久代
JAFS40 周年を知らしめると共に、更なる活動展開する機会とする。
委員会を第1回4月2日(火)開催 第2回5月9日(木)開催
以下のイベントを40周年記念行事の一環として行った。
・7月14-15日 熊野塾(熊野古道)
・7月28日 チェロコンサート(モーツァルトサロン)
・8月30&31日「セカイイチャイスイ」試写会
・11月&12月 瀬田敦子さんコンサート(河内長野・高槻)
*日本語スピーチコンテスト
目的:アジア人対象のコンテストを通じて、多文化共生活動を担う人材の発掘・育成や留学生支援活動の機会とする。

日時:9月29日(日)14:00-16:00
会場:クレオ大阪中央(セミナーホール)
スピーチ出場者:アジアからの留学生 7名
テーマ:日本に来て思ったこと・感じたこと、アジア(祖国)と日本

イベント収益及び40周年募金より
インドに40周年記念井戸1基 寄贈

6. 関連市民活動

(1) 関西ナショナル・トラスト協会

(代表 山竹継男)

事業期間:2019年4月1日～2020年3月31日
事業の内容:残していく自然(京都府南丹市美山町にある「美山楽舎」や新淀川河川敷)を実際に訪れ、市民レベルでの自然環境保全を考えた。

(1)自然環境保全事業

内容:残していくべき自然(京都府南丹市美山町の「美山楽舎」の活用や新淀川河川敷を実際に訪れ市民レベルでの自然環境保全を実施した。

- 5月26日 美山紅芍薬観察会
- 7月14日 第16回しじみ獲り(新淀川河川敷)
- 3月27日～30日 第8回美山土と水と緑の自然学校(中止)

(2)保有・管理財産活用事業

内容:京都府南丹市に保有する「美山楽舎」の土地・建物を一般に有料で貸し出し保存すべき歴史的建物=(古民家)に触れることによりナショナル・トラスト運動に理解を深めて頂いた。

(4)農林漁業生産支援事業

内容:農村地域の行事に積極的に参加し、地元住民との交流を図り、農業生産の実態や農業生産支援について考える機会を得た。

- 10月26日 奥庵堂祭りに参加
- 2月2日 美山神谷雪祭り協賛

(2) 日本を良くする会 (Make Japan)

(代表:萩尾千里、大阪グループ代表幹事:橋口高明)

本会の国際協力フィードバック事業の一環として、本会会員有志が主催する市民の会。活動目的は、「世界から尊敬されかつ信頼される国(社会)づくり」。日本の望ましい社会像、あるべき人間像を求めて、以下の諸活動に参加する創造的の市民の会を目指している。

発足は2006年12月

定例会:毎月第一日曜日 午後2:00～5:00
場 所:JAFS 会議室
(都合により日程、場所に変更有)

<年間を通じての基調テーマ>

1. 憲法改正の論議(終戦時 GHQ による押しつけ憲法に由来する)
2. 外交・防衛関係(対中、対北、対韓、対露)など周辺諸国との摩擦

3. 国内政官界の衰弱と綱紀の弛緩
4. 国内の社会時事問題
5. 会の運営方針
6. その他

<2019 年定例会>

- 4月14日 第107回 JAFS 会議室 参加者 5名
- 6月2日 第108回 JAFS 会議室 参加者 5名
- 7月15日 第109回 JAFS 会議室 参加者 6名
- 9月8日 第110回 JAFS 会議室 参加者 5名
- 10月20日 第111回 JAFS 会議室 参加者 7名
- 11月17日 第112回 JAFS 会議室 参加者 7名
- 12月8日 第113回 JAFS 会議室 参加者 7名

<2020 年定例会>

- 1月13日 第114回 JAFS 会議室 参加者 5名
- *新型コロナウイルス感染予防のため、以後中止
- 2月29日 第115回 国会議員による時局講演会
- 3月29日 第116回 JAFS 会議室

<当面の運営方向>

これまでの検討経過を踏まえ、改憲論議の機運を盛り上げるためのアクションをとるようにしたい。例えば、新聞への投書、地域選出議員(本人、事務所、党本部など)への嘆願書提出など。また、思いを同じくする他団体との交流なども、引き続き試みていきたい。



スリランカ・サルボダヤ友の会 スリランカ人による講座の様子



ネパールへのかけ橋活動 20 周年記念で現地ツアー実施

Ⅳ－B．環境保全・環境教育（国際グリーンスカウト活動）

（１）土と水と緑の学校

次世代の子どもたちが、地球の基本である土、水、緑の自然の大切さ・役割を体で感じ取って学ぶ自然環境教育プログラム。山と川と海に囲まれた和歌山県新宮市高田で、子どもたちがリーダーと共に各寺子屋を5泊6日で巡り、自然体験をした。新宮市からの協力を得て、東日本大震災の被災地である名取市から子どもたち10名が参加した。合計75名が自然豊かな新宮市高田地区に集い、「36回土と水と緑の学校」を実施した。

開催趣旨

大自然の中での生活体験を通じ、自然の成り立ちや不思議を知り、人間を含む生態系の営みや自然を大切にすることを学び、次代を担う世代として、より豊かな心を持たせることを目的とする。

実施期間 2019年8月5日(月)～10日(土)の5泊6日
(本部開設期間8月3日(土)～8月11日(日))

実施場所 和歌山県新宮市 高田地区一帯

および、那智勝浦宇久井

本部:高田公民館

主催者名 【旅行企画実施】

関西教育旅行

【プログラム提供】

新宮市教育委員会 和歌山県新宮市

公益社団法人 アジア協会アジア友の会(JAFS)

一般財団法人 新熊野体験研修協会

協力者名 近畿労働金庫、大阪帝塚山ライオンズクラブ

後援者名 大阪府教育委員会、大阪市教育委員会

和歌山県教育委員会、新宮市教育委員会

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団

社会福祉法人 産経新聞厚生文化事業団

社会福祉法人 読売光と愛の事業団大阪支部

公益財団法人 毎日新聞大阪社会事業団

参加者数 (小学3年～中学3年) 75名

(大阪・京都23名・新宮42名・名取10名)

ジュニアリーダー数(高校生) 8名

リーダー数(大学生・社会人) 11名

本部ボランティア・関係者・スタッフ数 64名

講師数 8名

土の授業

午前中は、栄養度の高い腐葉土を山から摂り、その中に住む、昆虫やその他の微生物の観察。色やにおいなど様々な特徴から土について学習した。午後からは、班ごとでクラフトや、自然体験ゲーム、川遊び、成果発表の準備などを行った。

水の授業

午前中は、水中にすむ生物の観察から水の大切さを学んだ。何十種類にもおよぶ川の生き物の採集し、それらの特性、特徴を観察した。午後からは、カヌー体験で川の流れを知り、川で泳ぐ体験により全身で水を感じた。

緑の授業

午前中は、緑の働きや人々とのかかわりを、あずま屋から一ノ滝まで歩いて学んだ。ハイキングの中で、草木や熊野地方特有の植

物に触れ、緑の役割を学んだ。午後からは、テントでの宿泊を体験し、かまどでの火起こしやエコ自炊やドラム缶風呂を体験した。

海の授業

午前中は、海に生きる多様な生物を採集し、生態を観察した。海での磯観察では多種多様な生物に触れた。

午後からは、船でホエール・ウォッチングに出かけ、クジラの生態を学び、地域での取り組みについて考えた。

心の授業

スライド写真を通じて、かけがえのない命として生まれてきたことや77億人の人類が自然と共存しながら、お互いに助け合って生きていることの大切さを学んだ。また同世代のアジアの子どもたちの生活を知り、私たちの生活を振り返って考えた。

（２）美山 土と水と緑の自然学校

本プログラムの特徴は、「農村と都市の交流」である。自然体験だけでなく、農村に暮らす人々との交流を通し、森林の活用、身近にある自然・文化と生活のつながりなど、自然を大切にすることの意味を学び、自然や周りの人々など多くのものに支えられていること、そのつながりを実感することで他者や自然を思いやる心を育てることを目的としている。

開催趣旨

「農村と都市の交流」をテーマに、単なる自然体験ではなく、農村に暮らす人々との交流を通して身近にある自然と生活のつながりなどを学ぶことで、自然を大切にすることと仲間を思いやる気持ちを育てる。

第8回 美山「土と水と緑の自然学校」は、2019年3月24日(日)～27日(水)に、京都府南丹市美山町大内地区にて開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染予防対策のため中止した。

（３）各部会活動

国際グリーンスカウト運動とは「Think Globally, Act Locally(地球規模で考え、地域で行動を)」をモットーとした「地球市民による地球環境保全活動」を目指す本会提唱のプログラムである。AFSの海外ネットワーク(インド、スリランカ、フィリピン、ネパール、タイ)を通じて国際的に展開している。国内でも、このモットーに基づき、各地でグリーンスカウト隊が活動を行なっている(大阪、吹田)。

◆国際グリーンスカウト大阪◆

(代表:永井大介)

活動内容

年間を通して京都府南丹市美山町にて農業体験を実施、集落支援活動を通じて、青少年環育活動を行った。今年は、大阪府箕面や新宮で予定していたキャンプが悪天候で中止となった。

活動報告

8月5日～10日 第36回土と水と緑の学校に参加(新宮市高田)
その他、美山町にて適宜農業体験などを実施

◆国際グリーンスカウト吹田◆

(主なメンバー: 杉原貴、雨森清忠、越智久美子)

地球規模で環境保全を考え、そのために自分たちの住む地域で出来ることをやっていこうというグリーンスカウトの理念を実現するために、2001年に京都府美山町で行われたグリーンスカウトの国際大会で知り合ったメンバー同志で活動チームを結成。環境保全活動およびその教育の持続と実行のため、2003年より毎月第1土曜日に吹田市の糸田川の清掃を行っている。2003年より、毎年7月には子どもたちを連れて無人島でキャンプを行っている。2019年も引き続き、月一回の川清掃を実施3月以外毎月実施し、夏のキャンプ、年数回吹田内でキャンプを行った。

<糸田川清掃、環境保全活動>

毎月一回、基本的に第一土曜日に30分ほど実施。

参加人数は平均3人。

実施日: 4月6日、5月11日、6月1日、7月6日、8月3日、
9月7日、10月5日、11月9日、12月7日、1月18日、2月1日

<無人島キャンプ>

7月13日～7月15日(友が島)



無人島キャンプで必要な水を子ども達自から運搬(GS 吹田)



無人島キャンプでの磯観察(GS 吹田)



第36回土と水と緑の学校「参加者集合！」



海の日の授業で磯観察に興味津々の参加者たち(土水)



水の授業でカヌー体験(土と水と緑の学校)



JAFS40 周年記念式典 永年会員感謝表彰の代表者の方々



法人賛助会講演会(エリ・コーヘン氏)



作文コンテスト佳作受賞者



アジア夢基金 チャリティチェロコンサート



日本語スピーチコンテスト参加者の留学生たち



社員クラブ・コスモスクラブ合同年末交流会



アジア・チャリティフェスティバルにて、バングラデシュとウイグルの参加者たち



和歌山県で実施した熊野塾



富田林地区会恒例の BBQ 会



姫路地区会 寄贈した井戸を視察にネパールへ



堺・高石地区ギターサマーコンサート



H20 サンタ チャリティイベント参加



JAFS 松原で JAFS の広報活動



ロータリークラブ大阪大会で JAFS 広報活動



関東地区会 グローバルフェスティバル参加



久光製薬ほっとハートクラブ 寄付金贈呈式

V. 運営管理

V-A. 社員総会

公益社団法人アジア協会アジア友の会第8回社員総会を下記の通り開催した。定款第16条の定めにより萩尾会長が議長となり議事を進行した。現在の社員数216名の内、出席社員数155名（内書面評決者及び評決委任者98名を含む）であり、過半数に達し、総会は適法に成立していることを宣した。

日 時：2019年6月8日（土） 午後3時～4時30分

会 場：大阪産業創造館6階 会議室

議 案：Ⅰ. 決議事項

第1号議案『2018年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）、
同附属明細書及び財産目録承認』の件』の件

Ⅱ. 報告事項

- ① 2018年度事業報告並びに同附属明細書について
- ② 2019年度事業計画書について
- ③ 2019年度収支予算書について

上記の決議事項に関して、異議なく承認された。

V-B. 役員一覧

役 職	氏 名	経 歴
会 長	萩尾 千里	大阪国際フォーラム 会長
理 事 長	田中 久雄	元（株）かんぼう 社長
副 会 長	小原 純子	（一財）大阪市男女共同参画のまち創生協会 前理事長、現名誉顧問
	山田 英男	大阪カンボジア王国名誉領事、山田不動産（株）代表取締役 （学）芦屋学園 理事長
	湯川 剛	（株）OSG コーポレーション 代表取締役会長・CEO
専務理事 事務局長	村上 公彦	日本基督教団 寝屋川教会 牧師（本会創設者）
常務理事	富松 英二	元 三菱電機（株）通信機製作所 開発管理担当部長
常任理事	池田 直樹	あすなろ法律事務所 弁護士
	井上 勇一	日本キリスト教団 洛南教会 牧師
	上野 孝一	寝屋川十字の園 施設長
	沖田 文明	（特活）関西ナショナル・トラスト協会 副代表理事
	齋藤 公代	元 大阪北生協機関紙むつみ・タウン誌ライブタウン編集長
	櫻井 紘哉	元（株）三和銀行 管財部長 （学）芦屋学園理事
	篠原 勝弘	公益財団法人 CIESF 副理事長 元駐カンボジア特命全権大使
	西田 貞之	（有）西田興産 代表取締役 元大阪府職員
	新田 香織	近畿大学非常勤講師 元同大学総合社会学部 教授

	藤原 正昭	行岡保健衛生学園 顧問
	法花 敏郎	元（株）朝日ビルディング 代表取締役社長
	森本 榮三	森本グリーンサービス 相談役
	吉田 俊朗	元 ユニチカ（株） 監査役
理 事	熱田 親憲	NPO 法人ネパールヨードを支える会 理事長
	桑村 壽子	天王寺英数学院 理事長
	坂口 久代	関西イタリア語文化センター 代表
	高橋 泰彦	元 イオングループ労働組合連合会 会長
	土屋 菊男	元 関西学院高等部 教諭
	寺西 浩章	（宗）家原寺 住職
	橋口 高明	（株）エイメックストレイディング 代表取締役
	服部 貢	（株）服部建設事務所 代表取締役 相談役
	福澤 邦治	パナソニックグループ労働組合連合会 副中央執行委員長
	古谷 裕子	北港情報サービス（株） 代表取締役
	森本 匡昭	森本税理士事務所 所長
	米田 明正	（株）グローアップ 代表取締役
監 事	出口 貴之	（株）宝屋 代表取締役
	毛利 吉男	（株）カステロ 代表取締役
	山下 泰之	東邦金属（株）常勤監査役

（２０２０年３月３１日現在）

本会の事業・活動は、理事会及び各常置委員会によって管理・運営されている。2019年度における理事会、各委員会の開催状況は以下の通り。

V-C. 理事会

(議長:萩尾千里会長)

理事会: 5月、9月、12月、3月 (計4回開催)

原則として第4火曜日に実施。

V-D. 常置委員会

I. 公益目的事業I 開発支援事業

2019年度は、開発支援事業の進捗状況の確認、課題提示、プロジェクト評価、報告などを実施。2020年度新規事業の審議を実施。

委員長:米田明正理事

副委員長:米田明正理事

委員:熱田親憲理事、寺西浩章理事

<事業内容>

1. 水事業
2. 子ども事業
3. 貧困対策事業
4. 環境事業
5. サイクル・エイド事業

開催日:5月、9月、12月、2月、3月(メール会議) 計5回実施。

II. 公益目的事業II 国際交流事業

国際交流事業の進捗状況の確認、報告などを中心に行なった。各事業ごとに実行委員会を持ち、円滑にプログラム運営を実施。

委員長:西田貞之理事

委員:坂口久代理事

<事業内容>

1. 人材交流・育成事業
2. ネットワーク推進事業
3. アジア・フレンドシップ夢基金

開催日:6月、8月、9月、10月、11月、2月

10月8日～12日には、第29回アジア国際ネットワークセミナーをインドネシア・バリで実施した。

III. 公益目的事業III 生活支援事業

2019年度は、以下1～2の支援事業決定事項や進捗状況について協議。また、年度途中でフィリピンでの台風被害を受けて緊急支援依頼が現地より着たことで、その対応に関して協議した。

委員長:藤原正昭理事

副委員長:橋口高明理事

<事業内容>

1. ネパール地震災害復興支援事業
2. 東日本大震災支援事業
3. フィリピン台風ファンフォン災害支援

開催日 5月、12月、2月、3月(メール稟議を含め 計6回実施)

3月1日よりネパールのN連署名式及び現地政府報告会、事業地視察を実施した。

IV. 公益目的事業IV 普及啓発事業

事業項目別に担当理事を中心に委員会が開催された。

<事業内容>

1. 会員拡大・地域活動推進委員会(齋藤公代委員長)
地区世話人とともに活動していく仲間(会員)の輪を広げる活動を推進した。
会員拡大地域活動推進委員会:8月、11月、1月
活動協力スタッフ会議:4月、5月、7月、8月
地区担当スタッフ会議:6月、8月
2. 広報企画委員会(法花敏郎委員長)
アジアネット編集とHPリニューアルを中心に開催。
開催月:4月、5月、6月、7月、8月、9月、10月、11月、12月、2020年1月、2月、3月 計28回開催
3. 事業委員会(沖田文明委員長)
住道バザー、土と水と緑の学校、熊野塾、アジア・チャリティ・フェスティバルを開催
委員会: 6月、7月、10月、12月
4. 国際文化交流事業委員会(新田香織委員長、藤原正昭副委員長)
アジアを身近に感じ理解し、活動を応援する人々の育成を目指し支援の輪を広げるを中心に活動。
開催月:5月、7月、9月、12月、3月
5. 全国ネットワーク委員会(井上勇一委員長)
全国の活動拠点作りのための人材発掘に努力した。
開催月:7月、9月、12月、1月

V. 法人管理部門

委員長:櫻井紘哉理事

1. 総務兼法人賛助会担当 櫻井紘哉理事
 2. 財務担当 上野孝一理事
 3. 法務担当 池田直樹理事
 4. 庶務担当委員 吉田俊朗理事
 5. ガバナンス委員 富松英二常務理事
 6. 業務統括・事務局 村上公彦専務理事
- 開催月:原則として8月を除き毎月開催。計11回。

※JAFS40周年記念委員会 全体委員長:小原純子
2019年10月の創立40周年に向け 式典委員会、募金委員会、記念誌委員会、ビジョン委員会、会員サービス委員会、作文コンテスト委員会、記念イベント委員会の7つの委員会において事業がすすめられた。詳細は国内事業の項にて報告。

以上

【事業報告の附属明細書】

2019 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書に記載すべき事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないので、これを作成しない。

以上